

前橋市立図書館 新本館基本構想

MAEBASHI CITY LIBRARY CONCEPT

前橋市教育委員会

前橋市立図書館新本館基本構想



MAEBASHI CITY LIBRARY CONCEPT

目 次

第1章 基本構想策定の趣旨

1. 前橋市立図書館の使命
2. 歴史と所蔵品の特色
 - (1) 前橋市立図書館の歴史
 - (2) 所蔵品の特色と研究
3. 図書館ネットワークと立地
 - (1) 図書館のネットワーク
 - (2) 現本館と新本館の立地

第6章 終わりに

付則

図書館新本館構想策定プロジェクト会議委員名簿

資料編

第2章 前橋市立図書館の現状と課題

1. 施設面の課題
2. サービス面の課題
 - (1) 利用者等の推移と課題
 - (2) アンケート等からの考察

第3章 ビジョン策定までの過程

1. 組織
2. ワークショップの開催結果
3. ワーキンググループ会議の開催概要

第4章 ビジョンと4つの基本方針

1. 新本館ビジョン
2. 基本方針
 - (1) 学び、知力を「ささえる」
 - (2) 専門性を「いかす」
 - (3) 対話を「ひらく」
 - (4) 文化を「つなぐ」

第5章 新本館整備の考え方

1. ビジョン達成のための図書館整備のあり方
 - (1) 創造性を育む場
 - (2) 市民のリビングとなる場
 - (3) 地域とともに発展する場
2. 新本館のサービス拡充
 - (1) レファレンス機能の充実
 - (2) 図書の多様化
 - (3) 新機能の導入とそれを活用したサービス

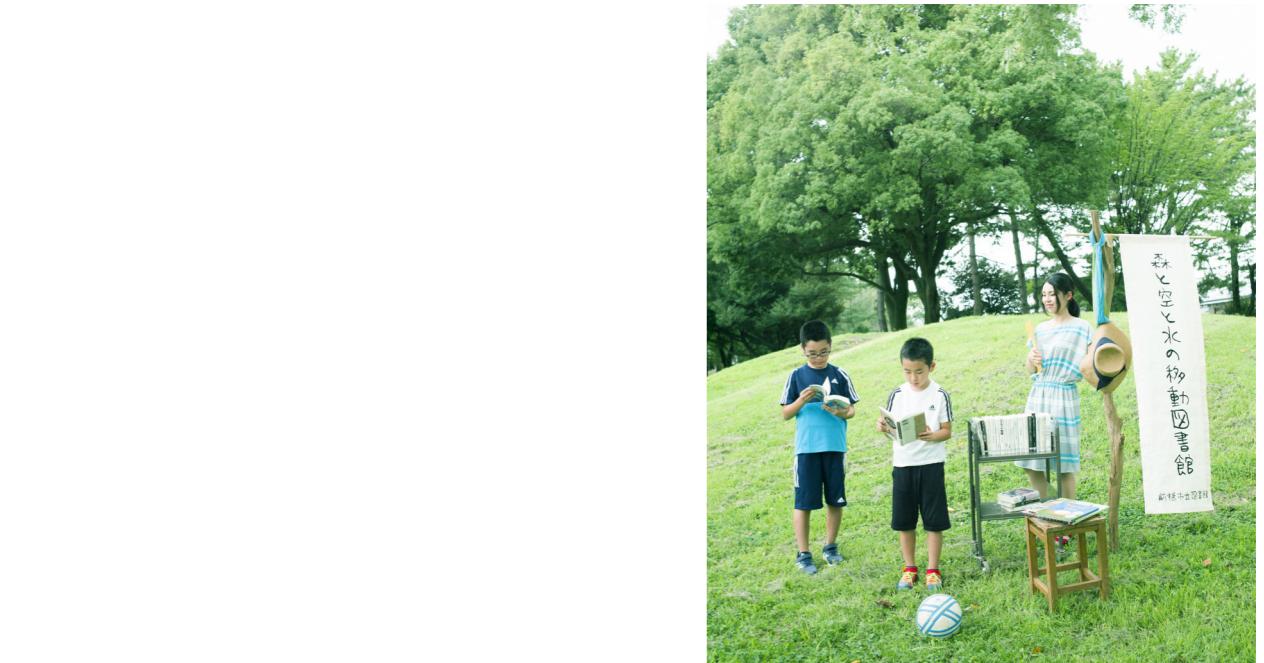
第1章 基本構想策定の趣旨

1. 前橋市立図書館の使命

1916（大正5）年に開館し県内の図書館の中で最も長い105年という歴史を紡いでいる前橋市立図書館は、図書館法や図書館の設置及び運営上の望ましい基準等に示されている公立図書館の役割のとおり「本と人と地域がつながる、知の拠点」を基盤とし、地域の歴史を継承し、学びを求める利用者や市民の創造性と知力を深めるための支援を継続していきます。

現在、現本館は整備や在り方を総合的に検討する時期を迎えています。そして、新しい地に建つ図書館は、テクノロジーの発展や目まぐるしく変化する社会情勢に対応し、進化していくなければなりません。しかしながら、長い歴史の中で形成してきた当館の所蔵図書をはじめとするアーカイブをさらに充実させる、そしてそれを市民の知への要求に応えるために活用し、前橋の文化の発展を支えるという当館の開館からの役割は決して変わりません。**図書館は、本や他者との対話を促し、多様な声に耳を傾ける場所であり続けます。**

新本館の移転予定地は、前橋ビジョン「めぶく。Where good things grow(*1)」のもと、官民協働のまちづくりが進む前橋中心市街地の中央に位置します。商業施設が集まる場所に新本館が移転することで、まちなかに新たな活気を生み、文化教育都市としての前橋を発展させることを目指します。近隣には前橋文学館、アーツ前橋など地域の文化の発展を担う芸術文化施設や、群馬県立図書館などがあります。それらの施設と連携することで、知の拠点である図書館が、さらに多くの市民に豊かな芸術文化を開いていけると考えています。



新本館は本と人、人と人、人と地域の交流を生み出す「対話の場」として機能し、新たな繋がりを見い出することで前橋の文化の発展を支えていきます。また、これから的新本館の役割として**多様な利用者の要求に柔軟に応えることのできる広場のような場所**を築いていきます。

私たちは、新本館を市民が創造的に活用し、多様な関わりができる場とするため、教育委員会内にプロジェクト会議を設置するとともに、市民や有識者、図書館員などのメンバーで構成するワーキンググループを立ち上げ、図書館新本館のビジョン策定に向けて対話を進めてきました。

*1 前橋ビジョンとは：民間の視点から前橋市の特徴を調査分析し、目指すべき将来像を示したまちづくりのビジョン

2. 歴史と所蔵品の特色

(1) 前橋市立図書館の歴史

1916（大正5）年に開館した前橋市立図書館の建物（初代）は、現在の日本銀行前橋支店（前橋市大手町二丁目）にありました。大正時代の前橋は製糸業の活気^(*2)に満ちた街で、広瀬川の北には製糸工場が広がり、石炭の煙で終日空が覆われていました。ここで生産された生糸は横浜港を経由して海外へ出荷され、「マエバシ・シルク」と呼ばれロンドン市場などにおいて高値で取り引きされました。初代の図書館は洋風2階建てのモダン建築で「生糸のまち」として、国の花形産業に支えられながら、近代都市を目指して変貌する前橋の時世の中で始まりました。また、1943（昭和18）年には群馬県中央図書館^(*3)に指定され、県内全域にわたって図書館活動を展開します。

1956（昭和31）年、初代建物の老朽化に伴い、国有地であった前橋財務事務所（現在の図書館の北側）を改修して図書館は移転（2代目）します。木造2階建ての建物は冬になると風が吹き込み、冷房がないため夏も厳しい環境でした。その後、開架式の書棚に本が並ぶ市民の書斎をコンセプトとした開放的な図書館を本市出身の建築家・林昭男（第一工房^(*4)）が設計し、1974（昭和49）年に現在の建物（3代目）が完成します。この時代に開架図書スペースを設けることは先進的なことで、日本の図書館のあり方自体にも影響を与えることでした。

この構想を進めたのは、9代目館長の萩原進です。萩原は歴史研究者として活躍し、群馬県の文化活動の中心人物でもありました。この構想では、図書館を博物館や文書館などの機能を集約した西洋型のミュージアムとすることを目指しました。



現図書館の中庭にある竹は朔太郎の詩から連想した



前橋市立図書館本館

(2) 所蔵品の特色と研究

前橋市立図書館の所蔵品は上野教育会附属図書館（1900（明治33）年設立^(*5)）の資料を継承したことになります。また、群馬県の中央図書館であったことから、市内だけでなく県内全域にわたる貴重な郷土資料を収集保存してきました。

現在、前橋市立図書館本館・前橋こども図書館・分館で約107万冊の資料を所蔵しています。本館が所蔵する約34万冊のうち、約4分1にあたる8万5,000冊程が郷土資料です。利用者が、地域に関する調査研究に広く活用できるよう、開架式の郷土資料室・県内資料室などで資料の収集保存を行ってきました。

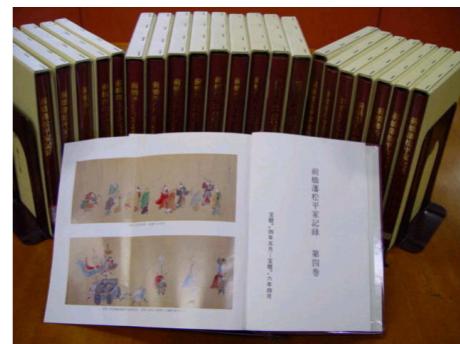
1870（明治3）年に藩営前橋製糸場が操業したことや、多くの製糸工場、乾繭取引所があったことで、前橋は「生糸のまち」として発展してきました。その歴史を後世に伝えるために、養蚕学や丸登製糸工場の業務日報など、蚕糸資料約4,500点を所蔵しています。

また、1923（大正12）年に設立した古前橋研究会の古文書研究に始まり、前橋藩松平大和守家記録（群馬県指定重要文化財）の解読と刊行事業など、郷土資料を活用した歴史研究は全国的にも高い評価を受けています。昭和30年代に収集を始めた郷土の詩人・萩原朔太郎の関連資料は1万点以上に及び、高橋元吉、萩原恭次郎、平井晩村、伊藤信吉ら本市出身の近代詩人が遺した著作物を含めた資料は前橋文学館の設立（1993（平成5）年）として結実します。朔太郎研究の中心となつたのは、7代目館長の渋谷国忠です。渋谷の研究の成果は、当時まだ広く一般に知られていないなかつた萩原朔太郎の存在を全国へ押し上げることにつながります。

その他にも、図書や歴史史料だけでなく、群馬県出身の南城一夫、福沢一郎、司修の絵画作品や高田博厚の彫刻などの美術品、井上武士自筆楽譜を所蔵しています。



座縫り作業 小林製糸所にて（朝日町三丁目）



前橋藩松平大和守家記録 全40巻



詩人・萩原朔太郎

^(*2) 製糸業の全盛期は1919年頃

^(*3) 群馬県立図書館は1953年に開館

^(*4) 第一工房は、1960年創立の建築設計事務所。1964年の浪速芸術大学（現・大阪芸術大学）設計競技1等に始まり、以後複数の大学キャンパス整備計画に携わる。ほか、代表作には佐賀県立博物館、全労済情報センター、パークドーム熊本、群馬県立館林美術館、愛知万博瀬戸愛知県館（現・あいち海上の森センター）、白河市立図書館など。代表者は高橋龍一（1924-2016年）

^(*5) 群馬県を単位とする教育団体で、市内にあった日本赤十字群馬支部内に県内で最初の図書館を設置

3. 図書館ネットワークと立地

(1) 図書館のネットワーク

前橋市立図書館は本館、前橋こども図書館を始め市内の各地域 16 カ所に分館があり、さらに 7 カ所の停本所と 2 カ所の民間委託文庫を設置しています。そのことで遠くから足を運ばなくても他館の本や資料が借りられるなど、市内のすみずみまで図書館サービスが行きわたるように機能しています。

● 本館について

本館は入門書から専門書まで幅広い資料と情報を有していて、市民の多様な目的に対応するための機能を充実させています。郷土資料室、県内資料室、参考調査相談室を設けると同時に、専門的なレファレンス機能を備えています。また、参考図書や県内の貴重な資料を蓄積し、研究に役立つ資料を提供しています。

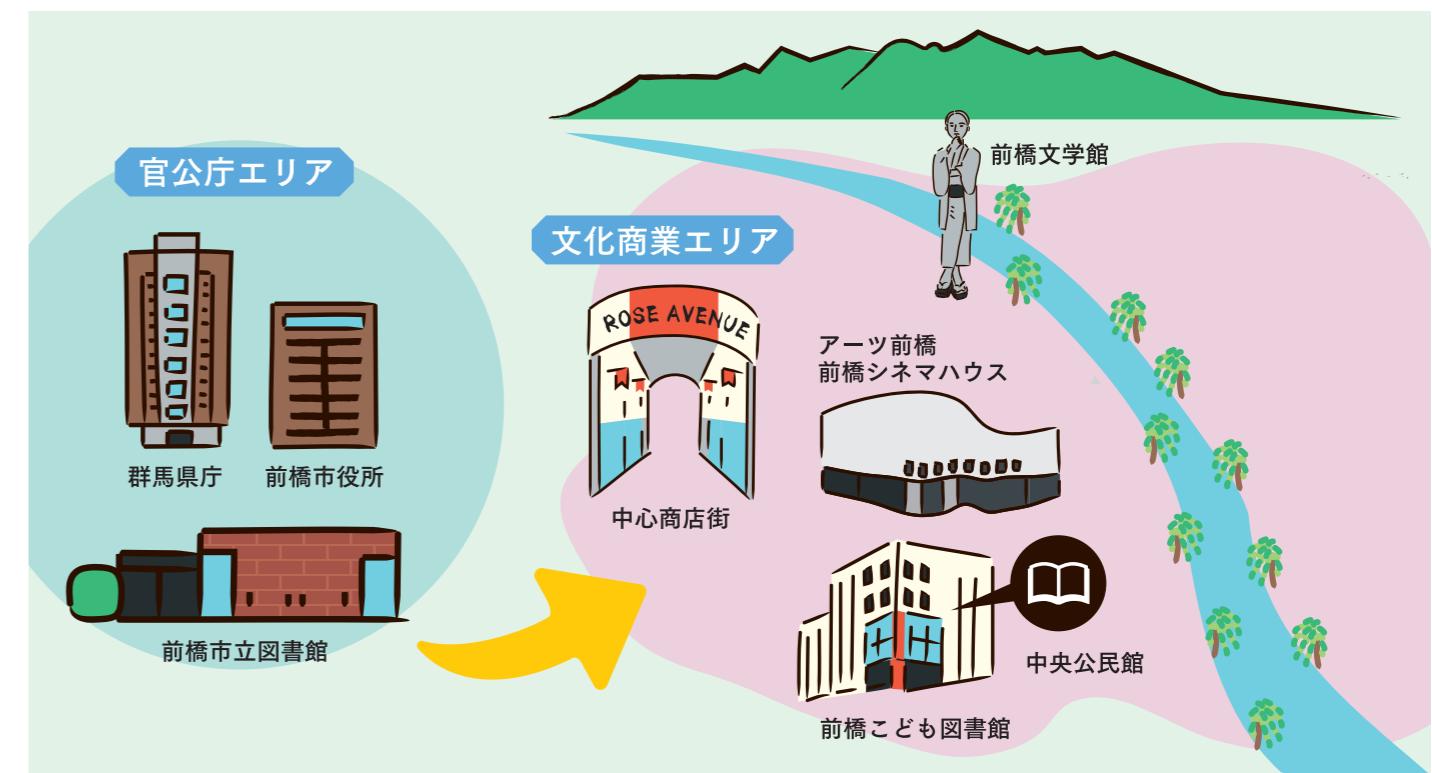
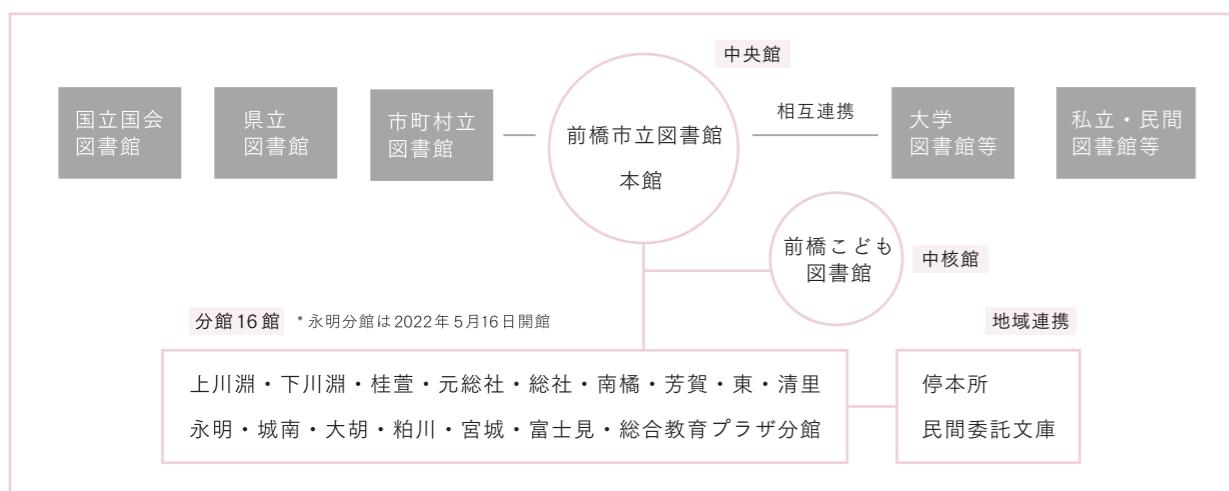
● 分館について

分館は利用者の身近な図書館として、日常生活の問題解決に役立つ実用書や、趣味の読み物、児童書、その地域に関連のある資料を中心に収集しています。設置されている各地域の特色やニーズを踏まえて、より利用者の暮らしに根差したものとなっています。

● 他館とのネットワークについて

各公立図書館や大学図書館など全国の図書館と協力し、資料や本の貸し借りを実施すること（相互貸借）により、利用者の学びを広げる体制を築いています。またオンラインネットワークとして群馬県立図書館のデジタルライブラリーを活用した貴重資料の公開や、国立国会図書館デジタルコレクションの活用など、全国どこからでも資料を閲覧できるサービスを提供しています。

● 図書館のネットワーク図



(2) 現行館と新本館の立地

現在の前橋市立図書館は、前橋市役所や群馬県庁、前橋地方合同庁舎などの公的機関が集まる官公庁エリアに位置しています。新本館は、前橋文学館やアーツ前橋、前橋シネマハウスなどの文化施設がある中心市街地へ移転することになります。

このことにより、より多くの人が利用し、多様に交流していく場になると考えられます。また、文化の入り口である図書館を通して、商業施設や文化施設との連携が深まり、新しい人の流れをつくることで、文化教育都市として前橋がさらに活性化することを見込んでいます。

第2章 前橋市立図書館の現状と課題

1. 施設面の課題

2010（平成22）年に地下書庫で大規模な漏水が発生し、建物に被害が及びました。現在まで継続的に漏水が発生しています。空調機や給排水、非常用発電機などさまざまな設備も老朽化が進み、修繕や改修に多額の費用を要しています。

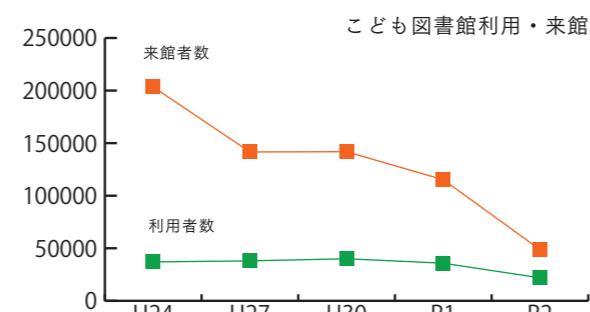
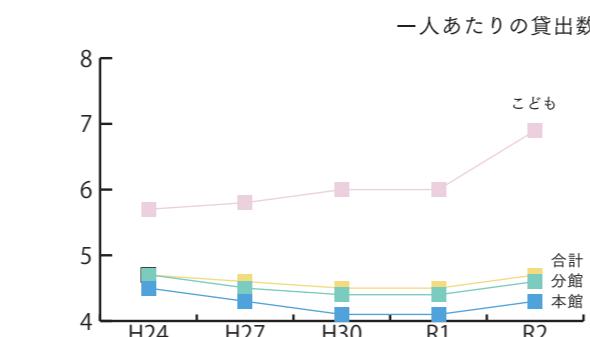
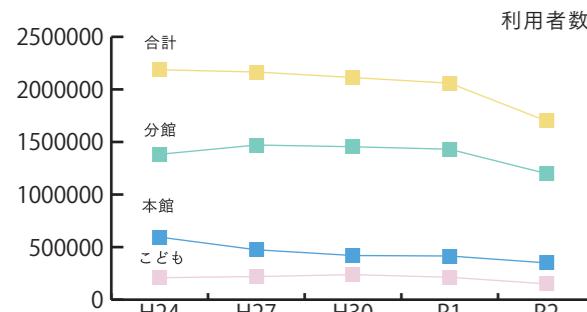
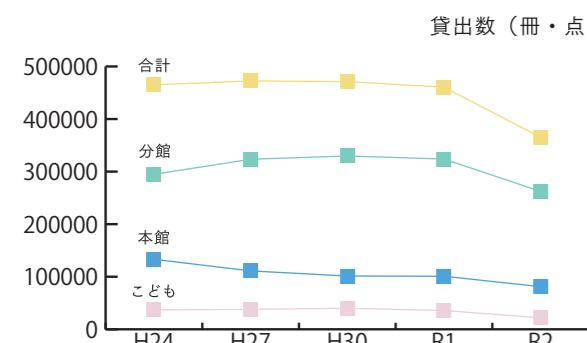
また、現在の図書館建設当時は30万冊の蔵書数を見込んでいましたが、年数の経過とともに蔵書数は増加し、書庫の収容能力をはるかに超えています。狭い通路やエレベーターの設置場所、段差が多いことなどユニバーサルデザインに対応していないことも大きな課題です。

新本館では、施設の機能と規模の最適化を図るとともに、施設の維持管理に必要なランニングコストの低減に努めていく必要があります。また、SDGsの観点から、省エネルギー機器等の採用などによる環境負荷への配慮が求められています。

2. サービス面の課題

（1）利用者等の推移と課題

前橋市立図書館全館の2012（平成24）年から2020（令和2）年までの利用状況の推移を見ると、各館コロナ禍で総体的には減少しています。〈前橋市立図書館統計より〉



＜平成24年～令和元年（コロナ禍前）の推移＞

● 本館

全ての項目で減少の傾向にあります。

● こども図書館

利用者数・貸出数ともに上昇の傾向にあります。ただし、1人当たりの貸出点数が増加している反面、来館者数は減少しています。

● 分館

利用者数は増加傾向にありますが、貸出点数は横ばいです。地域の施設として気軽に活用できる特徴を生かし、所蔵図書の周知などで利用の幅が広がることが期待されます。

（2）アンケート等からの考察

基本構想の策定にあたり、新本館に対する考え方やニーズなどを把握するために実施したアンケートや図書館利用者アンケート結果などの資料を基に、サービス面における課題を考察しました。

● 前橋市立図書館利用者アンケート（2021（令和3）年度・一部抜粋）

| 新しい図書館がどのような施設なら行ってみたいと思いますか？（複数回答可） | A 図書館利用者 | 順位 | B 市立学校の児童生徒及び保護者 | 順位 |
|--------------------------------------|----------|----|------------------|----|
| リラックスし長時間過ごせるスペースがある | 45.9% | 2 | 72.0% | 1 |
| カフェや物販などがあり、飲食スペースがある | 33.8% | 4 | 61.7% | 7 |
| 館内がエリア別に色分けされているなど | 25.4% | 7 | 69.1% | 3 |
| 分かりやすくなっている | | | | |

| 新しい図書館にどのようなサービスが欲しいですか？（複数回答可） | A 図書館利用者 | 順位 | B 市立学校の児童生徒及び保護者 | 順位 |
|---------------------------------|----------|----|------------------|----|
| 自動で貸し出し、返却ができる | 38.4% | 1 | 56.5% | 2 |
| 自分のパソコンやスマホで蔵書を試し読みできる | 28.3% | 2 | 41.4% | 7 |
| 読書や調べ学習の相談や支援を受けることができる | 21.2% | 3 | 44.6% | 5 |
| 障がいがある人や、多国籍の人たちに配慮したサービスがある | 17.3% | 5 | 54.7% | 4 |
| 誰もが使いやすいバリアフリーの施設 | | | | |

世代を問わず上位を占めたのは、「リラックスし長時間過ごせるスペースがある」、「自動で貸し出し返却ができる」「読書や調べ学習の相談や支援を受けることができる」でした。

特徴的な点として、市立学校の児童生徒及び保護者の回答では、「障がいがある人や、多国籍の人たちに配慮したサービスがある」が54.7%で上位、記述においても「誰もが使いやすいバリアフリーの施設」など、SDGsや共生社会の実現についての意識や関心の高さが伺えました。

| 図書館で実施したイベントや行事に参加したことがありますか。（Aのみに質問） | A 図書館利用者 | 順位 |
|---------------------------------------|----------|----|
| ない | 78.4% | 1 |
| ある | 15.6% | 2 |

| 新しい図書館でやってみたいことはありますか（複数回答可） | A 図書館利用者 | 順位 | B 市立学校の児童生徒及び保護者 | 順位 |
|------------------------------|----------|----|------------------|----|
| イベント参加 | 25.8% | 1 | 56.7% | 1 |
| ボランティアとして関わる | 16.9% | 2 | 35.0% | 2 |

コロナ禍という影響もありますが、図書館利用者のうち、図書館で実施したイベントや行事に参加したことありますかの問い合わせに「ない」という回答が78.4%。

しかし、新しい図書館でやってみたいことはありますかの問い合わせで「イベント参加」は全体の40%以上を占める結果となっています。

新本館は商業施設や文化施設が集結する中心市街地への移転を予定していることから、他施設と協力し、情報発信力を高めながら、連携事業などを通じて新たな利用者にアピールする機会を増やしていくと考えています。

● アンケートの結果から見えたもの

アンケート結果から、利用者層の固定化（主に50代以上）が大きな課題として浮かび上がりました。新本館が多様な市民の学びを支える役割を果たすためには、全世代にとって魅力となるような機能やサービスを充実させていくことが必要と考えています。さらに多くの人たちに情報を届ける工夫も重要な課題となります。

現在よりも広い面積が確保できる見込みの新本館は、こども図書館との一体的運用を予定していますが、「子どもと一緒に本を楽しめる空間」や子育てから解放され、ゆったり落ち着いて読書ができるよう「子どもだけでも安心して本が楽しめる空間」など、子育て世代が望む機能や設備を用意したり、20代以下の若い世代が求めるサービスを提供することで、より多くの利用者のニーズに応えることができると考えます。

また、市民に必要な本や資料を提供し、学びの意欲に応えるといった基本的なサービスを充実させながら、多様な人がそれぞれの目的のために利用できる図書館が望まれていると理解しました。

● まえばし人形劇フェスタ来場者アンケート（2021（令和3）年度・一部抜粋）

このアンケートから、新本館に望むサービスが図書館の利用者と未利用者で異なる傾向を示す一方で、「Wi-Fiが完備されたパソコンやタブレット利用者専用の空間がある」と「専門書や郷土資料が豊富で調べ事がしやすい」は、図書館を利用したことのない回答者にとっても魅力的であることが分かりました。

| 行ってみたくなる図書館（施設） | 利用者 | 未利用者 | 全体 |
|-------------------|-------|-------|-------|
| Wi-Fi完備のPC利用者専用空間 | 44.7% | 35.2% | 39.1% |

| 行ってみたくなる図書館（サービス） | 利用者 | 未利用者 | 全体 |
|-------------------|-------|-------|-------|
| Wi-Fi完備のPC利用者専用空間 | 28.9% | 25.9% | 27.2% |

<設問（5）中心地にできる図書館に行ってみたくなる「新しい何か」より抜粋>

● 子ども読書活動推進計画（第三次）に伴うアンケート（2020（令和2）年度・一部抜粋）

わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べるかの設問に対し、「インターネットで調べる」が、中学生42.1%、高校生61.0%と高く、公立図書館で調べるは中学生0.6%、高校生0.3%でした。

新本館では、ICTを駆使した調査手段を提供すると同時に、図書資料の活用方法や調べ学習の支援などの対面レンズも強化してインターネットとの共存と差別化を目指します。また、図書館ならではの専門力を学校図書館にも提供して、調べ学習のニーズに応えていきます。

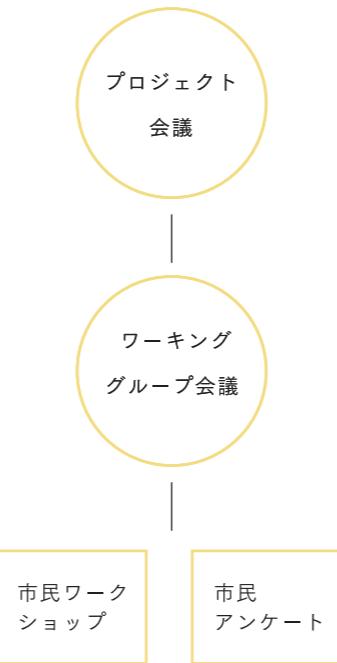
| わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べますか。 | 中学生 | 高校生 |
|---------------------------------|-------|-------|
| 学校図書館で調べる | 2.0% | 0.5% |
| 公立図書館で調べる | 0.6% | 0.3% |
| インターネットで調べる | 42.1% | 61.0% |

複数回答可

第3章 ビジョン策定までの過程

1. 組織

新本館基本構想を策定するためのプロジェクトチームは、プロジェクト会議とワーキンググループから組織されました。プロジェクト会議は前橋市教育委員会を中心に各分野の有識者を外部委員に迎えました。ワーキンググループは公募の市民や学生など、さらに幅広いメンバーと図書館員が対等に話し合うためのチームです。ワーキンググループでは、市民ワークショップを開催し、市民との対話の場を設けました。



2. ワークショップの開催結果

ワーキンググループでは、新本館基本構想に多様な意見を取り入れるため、市民との対話の場として、「学生」「司書」「建築」の3つのテーマでワークショップを開催しました。50年、100年後も地域の物語をつなぎ、市民の心に寄り添う公共図書館のあり方を考えていきたいとの思いから、タイトルは「未来の図書館をつくるワークショップ」としました。

学生 司書 建築

このワークショップの実践は、新しいものを生み出すための「他者との対話の価値」を証明しているのだと思います。

ワークショップから見えてきたことは、図書館が本来的に目指してきた歩みそのものの大切さでした。この成果を、新本館構想策定プロジェクト会議、ワーキンググループ会議において議論し、新本館基本構想のビジョンが導き出されました。ビジョンをさらに具体化させるため、引き続き市民とのワークショップを重ねていきます。

キーワード

文化のハブ、リアルとデジタル、収集と共有、一人でできることとみんなでできること
ユニバーサルデザイン、50年後も寄り添える図書館、自由を持たせる、平和に過ごせる場所
地域とのつながりや愛着、多様性、専門性、対話、集う

学生 「学生と考える人が集まる図書館」

| | |
|----|--|
| 日時 | 2021年8月11日（水曜）13:00～15:00 |
| 会場 | 前橋市高校生学習室（表町二丁目 アクエル前橋2階） |
| 内容 | 前橋市高校生学習室を運営するNPO法人Next Generationをモディレーターに、高校生・大学生が集まり、図書館に人が集まる仕掛けについてKJ法でアイデアを出すグループワークを実施 |
| 考察 | 「地域とのつながりや愛着」「多様性」「地域連携」といったキーワードが語られ、これからの社会を担う世代にとっても、図書館には社会とのつながりを生み出す役割が求められていると実感しました。また、長居できるスペースなど、図書スペース以外の希望が多かったことも、新本館の在り方を考える上での指標となりました。 |



司書 「図書館キュレーターに求められる専門性」

| | |
|----|--|
| 日時 | 2021年8月21日（土曜）13:00～15:00 |
| 会場 | Zoomでオンライン形式 |
| 内容 | 筑波大学図書館情報メディア系・吉田右子教授による基調講演の後、図書館司書として全国の図書館で勤務する参加者で、図書館司書の専門性、図書館の可能性についてワークを実施 |
| 考察 | 吉田教授のお話から、「司書は図書館と人をつなぐ文化の仲介者である」という教えを受け、人と本によって創られる新たな図書館の可能性を見出しました。司書の話し合いの中では、通常業務だけではなく、利用者に「問い合わせ」を生むためのインタビュー能力や、コロナ禍で感じた孤独を図書館に来て解消してほしいなど、利用者との対話を生むための関わり方について議論が及びました。 |

建築 「対話が生まれる図書館建築」

| | |
|----|--|
| 日時 | 2021年9月23日（木曜・祝日）13:00～15:00 |
| 会場 | 前橋市立図書館 講堂 |
| 内容 | 前橋工科大学建築学科の学生が作成した現在の前橋市立図書館の1/50建築模型を基に、対話による新しい学びの場に変えるにはどのような仕掛けや空間が必要かを6人4班のグループワークを実施 |
| 考察 | 同大の学生が班ごとに立ち会い、参加者からのアイデアをその場で模型に反映させていくことで空間を変化させる体験を共有することができました。具体的には、壁を取り払ったり、屋外スペースを活用することで、人が自由に活動できる場所が増え、読書スペースの拡張や前橋の自然を眺めながら過ごすことが可能に。自由な空間は他者との会話を生み、「多様な人たちが楽しめる場」となることが実感できました。 |



3. ワーキンググループ会議の開催概要

ワーキンググループは、図書館職員だけでなく有識者や市民などでメンバーを構成し、多様な立場や年代の意見を集約するため構成されました。前橋市教育委員会内の意思決定機関であるプロジェクト会議に図るため、ワーキンググループ会議を開催し、メンバーそれぞれの意見をもとに新本館基本構想の素案を作成しました。

● 第1回ワーキンググループ会議

日時：2021年10月8日（金曜日）

方法：書面開催

内容：ワークショップの実施報告

● 第2回ワーキンググループ会議

日時：2021年10月22日（金曜日）14:00～15:00

会場：図書館講堂

内容：ワークショップの報告をもとに、「対話、専門性、前橋市にとって理想の図書館」をキーワードに意見交換を実施し、図書館新本館基本構想の素案に反映する意見を集約しました。

● 第3回ワーキンググループ会議

日時：2021年11月26日（金曜日）14:00～15:00

会場：図書館講堂

内容：図書館新本館基本構想素案についての意見交換を行い、前回までのワーキンググループ会議やワークショップの内容が反映されているか議論しました。

● 第4回ワーキンググループ会議

日時：2021年12月17日（金曜日）14:00～15:00

会場：図書館講堂

内容：プロジェクト会議にて公表するため、第3回会議での意見を反映した図書館新本館基本構想素案について意見交換を行いました。

● 図書館新本館構想策定ワーキンググループメンバー

| | | |
|--------|----------------------------|--------|
| 小野田 泰明 | 東北大学大学院 工学研究科 教授 | 外部メンバー |
| 石黒 由紀 | 前橋工科大学 建築学科 准教授 | |
| 大橋 慶人 | 前橋中央通り商店街振興組合 理事長 | |
| 橋本 薫 | 前橋まちなかエージェンシー 代表理事 | |
| 今井 有子 | 前橋商工会議所 産業政策部長 | |
| 日沼 大樹 | 前橋シネマハウス 支配人 | |
| 小林 寛史 | ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構 理事長 | |
| 生方 由紀子 | 前橋市読み聞かせグループ連絡協議会 代表 | |
| 高橋 紗弓 | 市民代表（公募） | |
| 箱田 伸吾 | | |
| 江口 優子 | | |
| 相田 穂乃花 | 前橋工科大学 | |
| 上垣内 彩梅 | | |
| 加藤 優季 | 共愛学園前橋国際大学 | |
| 坪川 敬祐 | | |
| 亀山 夏輝 | 群馬県立県民健康科学大学 | |
| 杉本 慎 | 群馬大学 | |
| 新島 庸企 | | |
| 畠山 樹 | | |
| 梅澤 萌々美 | | |
| 7名 | 前橋市立図書館 | 内部メンバー |
| 3名 | 前橋こども図書館 | |
| 3名 | 前橋市 市街地整備課 | |

第4章 ビジョンと4つの基本方針

1. 新本館ビジョン

市民との対話による成果を、ワーキンググループにて議論、プロジェクト会議で審議しました。そこで導き出されたのは、「対話による多様な学びがある知のひろば」という新本館のビジョンです。



— 対話による多様な学びがある**知のひろば**

人と図書館との関係は多様です

新本館は、地域文化の集積である図書資料を継承し、市民に提供することで、**学びを求める利用者**とともに成長し、いつの時代にも新しい知識を与える場所であることを目指します。そして、それをより多くの人たちに開いていくために、「知のひろば」として地域に広げていきます。

本や他者との対話により、世界を広げていく自由な学びの場は、多様性が尊重される共生社会の実現のために欠かせないものです。2019（令和元）年6月に「読書バリアフリー法（*6）」が施行されました。また、本市では外国人の人口が年々増加しており、本による他者や多文化を理解するための対話に向け、新本館をかたちづくっていきます。

そのために私たちは、「対話による多様な学びがある知のひろば」を新本館のビジョンに掲げ、そして、その実現のために、「学び、知力をささえる」「専門性をいかす」「対話をひらく」「文化をつなぐ」という4つの基本方針を定めました。

図書館新本館基本構想の骨格図

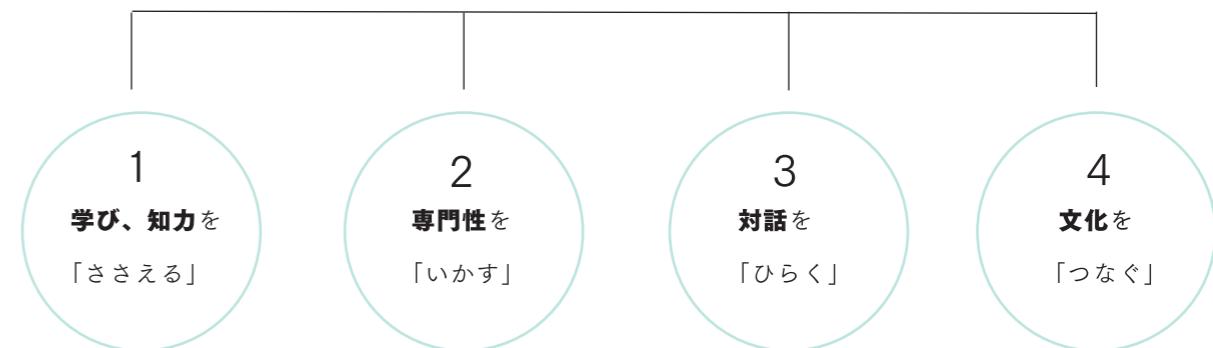
● 新本館で目指す姿



— 対話による多様な学びがある**知のひろば**

ビジョンを実現するための

4つの基本方針



ビジョン 実現を目指す将来のあるべき姿

*6 読書バリアフリー法とは：正式名称「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」。さまざまな障がいのある方が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指した法律

2. 基本方針

基本方針
1

—— 学び、知力を「ささえる」

子どもから大人まで学びの意欲を刺激し、子どもには初めてたくさんの本と慣れ親しむ公共の場であり、大人にはいつでも学び直しができる場として、利用者の知力を支えていきます。

① 子どもの自主性を育む

前橋こども図書館と一体となって運営することで、新本館では絵本や児童書に加えて、多様な書籍や文化に触れ合う機会を創出します。それによって、子どもが自ら本を選び取る自主性や好奇心を見い出していける仕組みや、大人も子どもも共にワクワクできる空間づくりを目指します。

館内に「子どものための読書スペース」を設置し、読み聞かせなどの本を活用したイベントなどを定期的に行い、学ぶ楽しさや本への興味を覚えながら社会性が育まれる場所をつくります。

② 館外への読書普及

学校や高齢者施設への団体貸出と在宅障がい者への配本サービスなどを継続して実施し、館外での読書普及活動を推進します。また、誰もが自分の目的に合った利用ができるようサポートして、**年齢や職業に関わらずいつでも学びつづける機会を生むための仕組み**をつくります。

基本方針
2

—— 専門性を「いかす」

図書館員一人一人が自身の専門知識を高めながら成長し、テクノロジーの発展や社会情勢などにより目まぐるしく変化する時代に対応していくことが求められます。

① 図書館員の人材育成

常に利用者のニーズを理解し、独自の専門性を強化し**図書館員として地域の課題解決に取り組むこと**で、**前橋市立図書館としての個性を引き出せるような人材育成**を目指します。また、それぞれの能力を十分に発揮することを目指します。「前橋市立図書館に行けば他にはない知識が手に入る」といった認識が市民に芽生えるような、質の高いサービスを提供していくために、図書資料に関する専門知識を備えた司書の育成を継続して行います。

② 市民の創造性を高める

市民の創造性を高めるため、芸術による表現の豊かさを伝えると同時に、教育普及などの活動を専門的に行う学芸員などを配置し、司書と学芸員が協力して質の高い展示や講座などを企画して、市の財産を利用者と共有する場を作ります。

主な
取り組み

- 子どもの自主性や社会性を尊重する仕組みをつくり、学びの意欲を支える
- 乳幼児や小学生が楽しめる「子どものための読書スペース」を設置
- 学校図書館と連携し、図書を通した教育支援を実施
- 読み聞かせグループや手話サークルなどのNPOや市民グループと協働して教育普及のための事業を実施する。併せて市民グループの技術の向上を図るための支援を行う
- 学校や高齢者施設などへの団体貸出、在宅障がい者への配本サービスによる読書普及を実施
- 図書資料活用方法についての周知を積極的に行い、学びの支援を行う
- ビジネスや暮らしに役立つ情報や資料を提供する

主な
取り組み

- 前橋市立図書館ならではの専門性を発揮し、郷土資料の選定やレファレンス機能の強化を図る
- 司書や学芸員、社会教育主事などの専門職が、文化の仲介者として図書館の専門サービスを支える
- 講演会やワークショップ、展示、教育普及事業などを専門職が連携して実施する
- 研修や勉強会を計画的に実施し、図書館員の専門性向上を図る
- 美術品や郷土資料など貴重資料の研究とアーカイブを継続して行う
- 展示や講演会などを行い、図書館の研究成果を広く市民に共有する
- 展示を行うためのギャラリースペース、貴重資料保管のための収蔵庫を設置する

基本方針 3

—— 対話を「ひらく」

中心市街地に位置する新本館は、実際の本や資料を開くことによって、**本と人との対話を生み、知的好奇心を刺激する場所であること、多様な人が交流できる新たな出会いの場**となることを目指します。

① 多様な人たちの交流の場となる

いつでも必要な情報が届く本に囲まれた空間であり、文化や言語、障がい、年齢、立場などの違いを超えて、利用者に開かれた場所でなければなりません。

さまざまな事情で日頃不自由を感じている人でも安心して心地よく過ごせ、読書を楽しみながら自由な発想を育むことができる環境であることを目指します。

② 文化を身近に感じる仕組みをつくる

市民の自主的な創作活動やコミュニティ活動支援の場としてのフリースペースなど、市民の知識や能力を発揮できる場としても機能します。

また、カフェなどの誰もが気軽に立ち寄れる空間を併設し、ふらっと立ち寄った人が他者と出会い、芸術表現に触れ、本を手にすることで知的好奇心を刺激する環境を作ります。

主な取り組み

- 市民の創作活動の発表の場として交流スペースを設置
- 案内表示や利用説明の多言語化
- 外国語図書の充実
- 利用者が司書などの図書館スタッフとも気軽に対話できる環境づくり
- ユニバーサルデザインに特化した設備や機能を整える
- カフェなどの誰でも訪れやすく親しみやすい空間を併設する



基本方針 4

—— 文化を「つなぐ」

新本館が移転する前橋中心市街地は、官民協働の再開発などが進むエリアです。前橋文学館やアーツ前橋、前橋シネマハウス、群馬県立図書館などの文化施設が集積した地区でもあります。

このような立地に、**文化の入り口としての図書館**が移転することで、新しい人の流れをつくり、文化教育都市としての前橋を発展させていきます。

① 文化施設や商業施設との連携

それぞれの文化施設や商店街などの商業施設と連携した事業を実現し、**前橋の「文化のハブ** (*7)

として街全体を動かしながら、地域と共に成長していく図書館を目指します。

利用者と本との出会いを広げ、書店などを始めとした市内の店舗と協働して書籍関連のイベントや展示を行い、市全体の読書活動推進を図ります。そのために、図書館員が館外に出て、本と人だけでなく、地域と図書館をつなぐ役割を果たせるように働きかけていきます。

② 図書館サポーターの育成

図書館の運営を支える図書館サポーター制度を発展させ、市民と図書館の交流を活発化させると同時に、文化の担い手を育成します。

③ 分館や他館とのネットワークの強化

当館は本館、前橋こども図書館を始めとして、各地区に置かれた16ヵ所の分館で機能を分担しながら一体的に運営しています。それらの分館とネットワークを結びながら、本館と分館の役割を整理し、本館は「前橋の歴史を継承しながら、中心部に文化的交流をつくる」ための役割を担っていきます。

また、国立国会図書館や群馬県立図書館、市町村立図書館だけでなく、大学図書館との連携を強化し、図書館サービスや機能の向上を図っていきます。

主な取り組み

- 図書館運営サポーター制度を発展させ、文化の担い手を育成する
- 周辺文化施設と連携した展示やイベントを定期的に実施する
- 商店街や市内の書店などの民間企業との協働イベントなどを企画する
- 本館と分館のそれぞれの特徴を生かしながら市全体の読書環境を充実させる
- 他の公共図書館や大学図書館との連携を強化し、図書館サービスの向上を図る

*7 文化的ハブ：コミュニティや文化施設の橋渡しをする交流拠点のこと

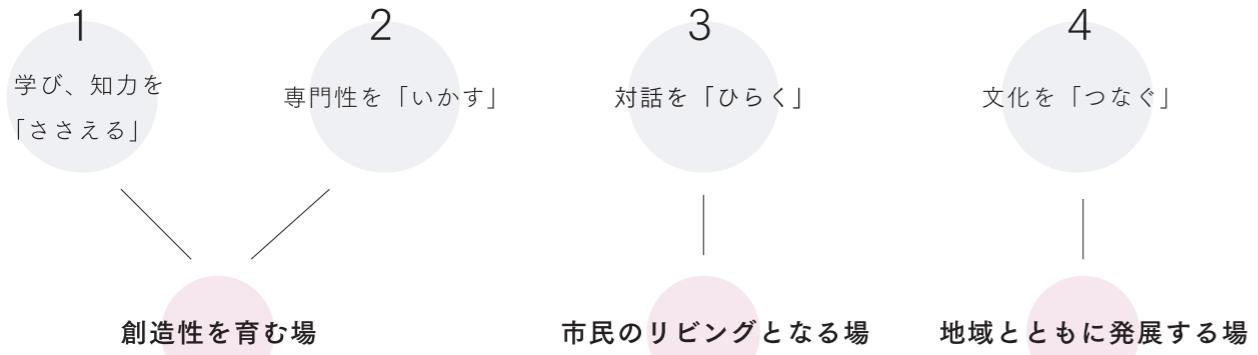
第5章 新本館整備の考え方

1. ビジョン達成のための図書館整備のあり方

「対話による多様な学びがある知のひろば」というビジョンを実現するための新本館の整備の在り方を検討していきます。

新本館の
ビジョン

対話による多様な学びがある知のひろば



1 創造性を育む場

図書館本来の目的である、あらゆる資料や情報の収集を積極的に行なながら、市民一人一人の知的 requirement に応えるための設備を目指します。郷土資料研究やレファレンス専用カウンターなど、地域の情報や専門的知識を提供するための空間のほか、学習室や集中読書室など、市民の自主研究のための空間を検討します。

また、市民に豊かな芸術に触れることで創造性を高める機会を与えるため、展示室や視聴覚室、シアタールームの併設を検討します。



2 市民のリビングとなる場

前橋市立図書館は、市民の日常の延長であり、居心地が良く安心できるリビングのような場となることを目指します。本の貸し借りや研究といった目的がなくても、気軽に訪れることができ、多様な人が平等に知識を得ることができる、生活と仕事に役立つ場となることを目指します。

また、それぞれの利用者が尊重され、対話が生まれる広場のような空間であることが望まれます。対面読書室やベビールーム、エレベーターなどユニバーサルデザインに対応した設備、フリースペースなど市民の活動発表や、交流のための空間を検討します。



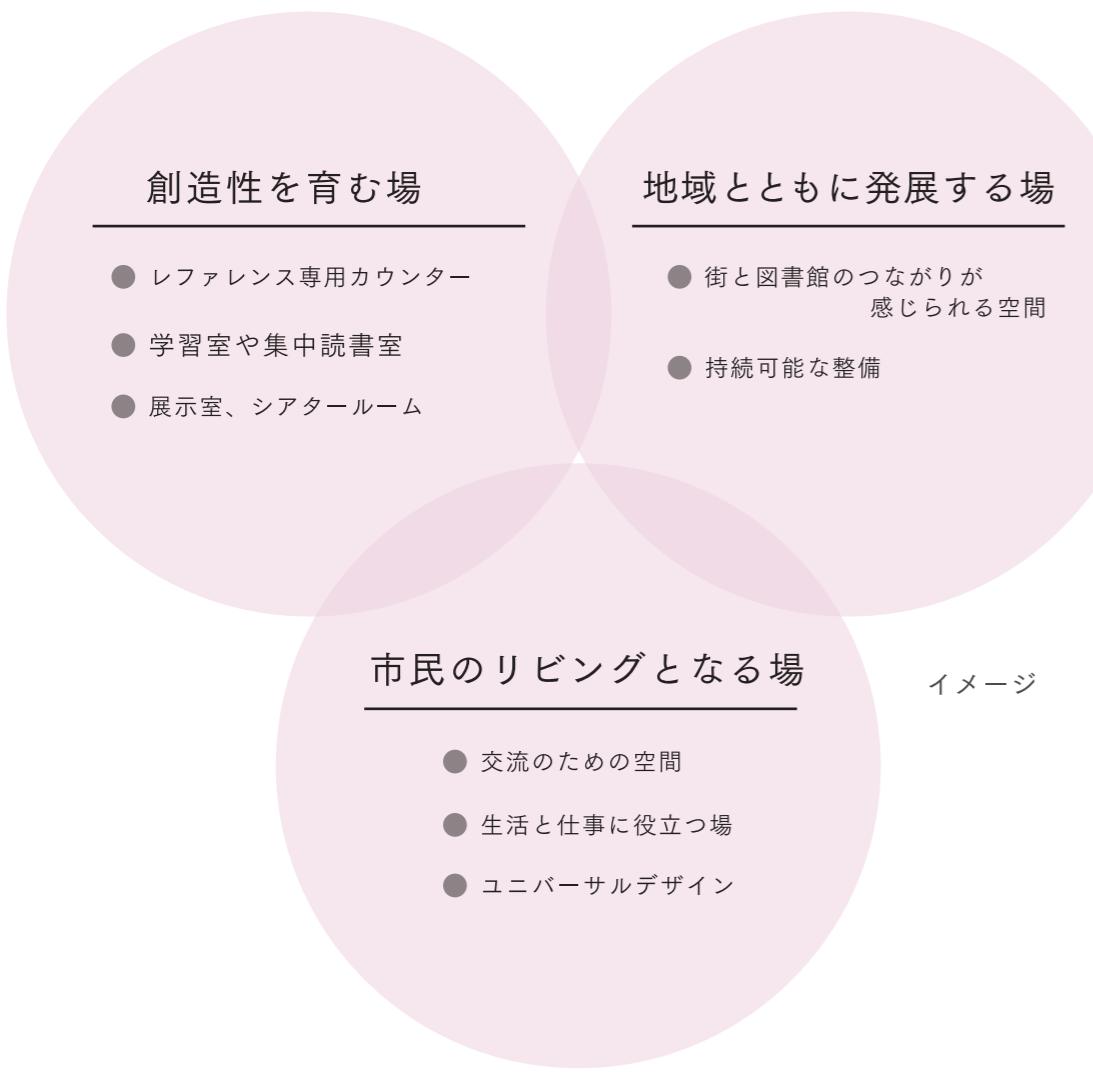
3 地域とともに発展する場

中心市街地に新本館が移転することにより、従来の機能を拡大し、多種多様な市民のニーズを理解し、地域と協働しながら「人」や「地域」とともに発展できる図書館を目指します。

街と図書館のつながりが見えるような空間であること。その時代に求められる用途に合わせてスペースの在り方を変えていくような工夫を検討します。また、環境や時代の変化に対応しながら持続可能な整備の在り方を検討し、地域に貢献できる施設を目指します。

検討される主なファシリティ

- 利用者がスムーズに本の貸し借りができるのはもちろん、書籍や資料についての疑問解決や、学びのための対話ができるエリア
- これまでの図書館としての基本設備に加え、利用者の自主学習や研究を支援するエリア
- 自由に交流ができる研究発表や市民の自主活動の発表の場となるエリア
- 館内サインにピクトグラムや多言語表記を用いるなどユニバーサルデザインに対応した設備
- 図書館が所有する貴重資料や前橋ゆかりの作家作品を保管、研究、発表できるエリア



2. 新本館のサービス拡充

新本館では、さまざまな機能やサービスの拡充が想定されますが、主に以下の3つのサービスの拡充を図ります。



1 レファレンス機能の充実

レファレンス機能の充実を図り、**研究を目的とした利用者へのサービス向上**を目指します。また、当館の所蔵図書や郷土資料を生かした展示や上映会などを推進し、市民と地域の資源を共有することで、前橋の歴史や文化の魅力を知ってもらう機会を創出します。また、所蔵図書や資料紹介のためのニュースレターの発行や、図書資料を活用したワークショップ、活用方法を周知するための講座を行うなど、資料活用による文化発展の可能性を広げていきます。

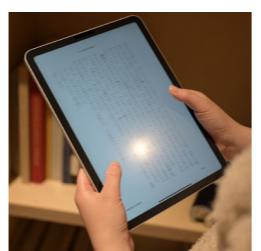
2 図書の多様化

文化や言語、障がい、年齢、立場などの違いを超えて、さまざまな人が図書資料を活用できるよう、幅広い種類の資料を積極的に収集します。外国語図書を充実させ、近年市内で人口が増加している外国人や、**多文化への学びを深めたい利用者への活用**を推進します。

3 新機能の導入とそれを活用したサービス

1. 電子書籍サービスとオンラインイベント

場所や時間を選ばずに誰にでも読書を楽しんでもらうための機能の1つとして、電子書籍サービスの充実を検討します。電子書籍の導入により多言語化の対応や、弱視や視覚・聴覚障がいがある人にも有効に活用してもらうことが期待されます。また、オンライン形式の講演会やイベント開催を推進し、外出が困難な場合でも、図書館で行われるイベントへの参加を可能にします。



2. ICT技術とデジタルコレクションの活用

今後も蔵書数が拡大されることが予想されることから、ICT技術などのテクノロジーを活用した資料の管理や提供を検討します。当館が持つ貴重資料のデジタルアーカイブ化を推進するため、国立国会図書館のデジタルコレクションや群馬県立図書館のデジタルライブラリーを活用し、普段一般公開されていない貴重資料の情報をもアクセスしやすい環境を整えます。

第6章 終わりに

さまざまな対話を繰り返して生まれた新本館のビジョンは、「対話による多様な学びがある知のひろば」というものでした。みなさんと描いた前橋市の図書館の未来図に、希望と先進性を感じています。

前橋市立図書館では、開館当初より 105 年にわたり継承してきたさまざまな本や資料を所蔵しています。それを市民が学びに活用し、知識を広げ、暮らしを豊かにする新たな知恵を生み出すことで、地域の過去、現在、未来をつなげました。

これからも図書館での自由な学びは、さまざまな人が共存できる社会の実現のために生かされいくことでしょう。

前橋市立図書館は今後新たな地でより多くの市民や地域とのつながりを深め、時代の変遷や多様な学びの要求に対応しながら、成長していきます。

そして 100 年後も、市民のみさんの「知のひろば」として愛される図書館であり続けます。

2022 年 4 月 15 日

付則 図書館新本館構想策定プロジェクト会議委員名簿

● 図書館新本館構想策定プロジェクト会議委員

| 外部委員 | 前橋工科大学 理事長 前橋中心商店街協同組合 理事長 前橋商工会議所 専務理事 前橋デザインコミッショング 企画局長 | 福田 尚久 植木 修 稻田 貴宣 日下田 伸 |
|------|--|--|
| 議長 | 前橋市教育委員会 教育長 | 吉川 真由美 |
| 副議長 | 前橋市 都市計画部長 前橋市教育委員会事務局 教育次長 指導担当次長 | 金井 秀人 藤井 一幸 都所 幸直 |
| 委員 | 前橋市 市街地整備課長 前橋市教育委員会事務局 総務課長 教育施設課長 文化財保護課長 学校教育課長 生涯学習課長 青少年課長 総合教育プラザ館長 図書館長 | 飯塚 佳雄 片貝 伸生 井野 寿志 上野 克巳 相原 吉次 関口 知子 阿久澤 正彦 金井 幸光 若島 敦子 |



福沢一郎《ケンタウロス》1970年 当館所蔵

プロジェクト
会議

ワーキング
グループ

目次

資料編



MAEBASHI CITY LIBRARY CONCEPT

DOCUMENT

第1章 前橋市立図書館の歴史と収蔵品

1. 前橋市立図書館の歴史
2. 資料の収集経緯
3. 郷土資料リスト
4. 所蔵品リスト

第2章 前橋市立図書館の現状

1. 施設概要
2. 収蔵と利用の状況

第3章 アンケート結果

1. 前橋市立図書館利用者アンケート
2. 子ども読書活動推進計画（第三次）に伴うアンケート

資料編 第1章 前橋市立図書館の歴史と収蔵品

1. 前橋市立図書館の歴史（1）

大正

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 4年2月17日 | 大正天皇即位記念のため図書館新設について満場一致議決 |
| 5年4月1日 | 図書館開館 前橋市曲輪町107番地（現日本銀行、当時の市役所東隣） |
| 6年3月9日 | 萩原朔太郎より自著の詩集『月に吠える』の寄贈 |
| 6年3月29日 | 「お伽学校」を初めて開催 |
| 8年1月15日 | 館報第1号を発行 |
| 12年5月26日 | 古前橋研究会を設立 |
| 14年3月7日 | 旧前橋藩主松平伯爵家所蔵の古文書調査 |
| 14年11月7日 | 図書館週間行事として第1回郷土史料展覧会を開催 |
| 15年4月1日 | 開館10周年記念式典を挙行、館報開館10周年記念号を発行 |
| 15年10月1日 | 群馬県人著述書目編さん刊行 |

昭和

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 3年11月1日 | 松平家より旧藩史料254冊の寄託 |
| 5年6月22日 | 「お話の会」を開催（以後月1回開催） |
| 18年11月5日 | 群馬県知事により前橋市立図書館が群馬県中央図書館に指定される |
| 20年4月5日 | 軍が図書館館舎を前橋地区憲兵隊の館舎とするため臨江閣に移転（開館せず） |



《前橋市立図書館上棟式棟札》
1915年 当館所蔵

資料編 第1章

1. 前橋市立図書館の歴史 (2)

昭和

| | |
|-----------|--|
| 20年5月1日 | 臨江閣を連隊区司令部が使用するため桃井国民学校内に移転し開館 |
| 20年10月 | 米軍憲兵隊が図書館館舎を接收(昭和21年7月26日に返還され開館) |
| 21年9月19日 | 前橋市民大学講座開講(昭和29年度まで定例行事として継続) |
| 28年6月1日 | 家庭文庫の巡回貸出を開始(昭和43年12月31日廃止) |
| 29年5月16日 | 萩原朔太郎研究を開催(主催:市民大学) |
| 29年8月20日 | 『萩原朔太郎書誌』を発行 |
| 31年1月31日 | 厚生省より群馬県点字図書館に指定される |
| 31年10月1日 | 新館舎開館 前橋市南曲輪町39番地(現・前橋市立図書館) |
| 32年7月1日 | 自動車文庫の巡回貸出を開始(平成29年3月31日廃止) |
| 33年7月30日 | 津久井幸子氏より萩原朔太郎常用机の寄附 |
| 34年3月25日 | 旧前橋藩史料を松平家より購入(400冊) |
| 34年7月28日 | 第1回盲人読書会を開催(以後月例開催) |
| 35年3月10日 | 萩原朔太郎研究会を開催 |
| 35年8月13日 | 萩原朔太郎研究座談会を開催 |
| 36年6月5日 | 萩原朔太郎書斎を桃井小学校庭に移築(図書館にて管理) |
| 38年12月22日 | 松平家記録が「前橋藩松平家記録」として前橋市指定重要文化財に指定 |
| 39年5月10日 | 萩原朔太郎研究会事務局を設置 |
| 41年8月20日 | 高橋元吉賞委員会事務局を設置(昭和47年1月28日解体) |
| 41年10月30日 | 萩原朔太郎生誕80年記念群馬詩人祭を開催 当館創立50周年及び萩原朔太郎誕生80周年を記念して 舟越保武氏制作「萩原朔太郎像」が前橋図書館後援会より寄贈 |
| 42年4月25日 | 萩原葉子氏から萩原朔太郎遺稿1,566枚の寄託 |
| 42年7月20日 | 自動車文庫新車を「ひろせ号」と命名 |
| 42年10月 | 野口綾子氏より前橋藩士野口家文書約1,000点の寄贈 |
| 43年1月6日 | 書庫を利用者に開放する |
| 44年3月 | 郷土人物伝記資料の収集を開始 |
| 44年4月7日 | 自動車文庫新車を「いずみ号」と命名 |
| 44年12月10日 | 前橋市立図書館友の会発足 |
| 47年6月7日 | 東公民館に停本所を設置 |
| 47年10月27日 | 点字図書を群馬県福祉センターへ移管 |
| 47年11月13日 | 仮館舎にて開館 前橋市千代田町二丁目1番20号 |
| 49年5月1日 | 前橋市教育研究所より「前橋市視聴覚ライブラリー」が移管(平成9年まで) |
| 49年5月15日 | 市制施行80周年記念事業で現図書館本館開館 前橋市大手町二丁目12番9号 |
| 49年11月2日 | 前橋市教育資料館を桃井小学校敷地内に開館(図書館にて管理) |
| 50年11月20日 | 彫刻家・高田博厚氏より同氏作の萩原朔太郎像の寄贈を受ける |
| 50年12月18日 | 児童文化センターに停本所を設置 |
| 50年12月24日 | 「前橋祇園祭礼絵巻2巻」が前橋市指定重要文化財に指定 |
| 51年11月9日 | 萩原朔太郎生誕90年祭を群馬会館大ホールで開催 |
| 52年10月12日 | 今井善之氏より尾高高雅の「歌集梶園詠草板木」(勝山牧治郎/編)の寄附 |
| 52年10月27日 | 蚕糸資料コーナーを設け資料の収集と利用を図る |
| 53年5月24日 | 筑摩書房より萩原朔太郎全集関係資料の寄附 |
| 53年6月1日 | 特志文庫室を郷土作家文庫室に改め関係資料を公開 |

昭和

| | |
|-----------|--|
| 53年11月30日 | 萩原朔太郎書斎を教育資料館前庭から敷島公園バラ園に移築 |
| 54年6月4日 | 朝倉児童館停本所を開設 |
| 54年10月26日 | 丸山三四子氏(丸山薰夫人)より書簡82通を萩原朔太郎資料として寄贈 |
| 54年11月5日 | 読書週間記念行事にて「郷土歴史講座」を実施 |
| 54年12月27日 | 萩原朔太郎生家離れ座敷を中央公民館から敷島公園バラ園内に移転復元 |
| 55年5月11日 | 萩原朔太郎記念館完成 |
| 55年8月10日 | 「郷土文学講座」を開催 |
| 55年10月8日 | 萩原葉子氏より朔太郎宛書簡等168点・図書1,286冊の寄贈 |
| 56年3月19日 | 酒井家資料、社会教育課より所管替(総点数675点) |
| 56年4月21日 | 萩原葉子氏より寄託中の朔太郎遺稿1,566枚寄贈 |
| 56年6月 | 高島信一氏より同家所蔵文書・資料を寄贈(高島家文書) |
| 57年8月28日 | 大沢昭三氏より朔太郎遺品の藤製応接セット3点寄贈 |
| 58年3月1日 | 姫路市立図書館蔵「酒井雅楽頭家旧蔵資料」のマイクロフィルム277巻を複製購入 |
| 58年4月25日 | 「酒井家史料129点」が前橋市指定重要文化財に指定 |
| 58年10月28日 | 『萩原朔太郎郷土詩集』を発行 |
| 59年4月1日 | 上川淵公民館図書室開設 |
| 59年10月26日 | 市指定重要文化財「酒井家史料」和綴コピー全57巻を社会教育課より所管替 |
| 59年10月31日 | 小見タケ氏(小見辰男夫人)より遺蔵書698冊の寄贈 |
| 60年9月19日 | 民間委託文庫「桜ヶ丘文庫」開設 |
| 60年10月17日 | 市指定重要文化財「酒井家史料」和綴コピー81巻を社会教育課より所管替 |
| 61年3月1日 | 前橋市立図書館創立70年を記念し「70年小史」を発行 |
| 61年4月1日 | 「前橋藩松平大和守家記録」解説作業開始 |
| 61年10月1日 | 桂萱公民館図書室開設 |
| 61年10月5日 | 萩原朔太郎生誕百年祭を開催 |
| 61年11月8日 | 前橋市立図書館創立70周年記念行事として記念講演会を開催 |
| 62年5月18日 | 画家司修氏より「装丁画235点・朔太郎肖像画1点」の寄贈 |
| 63年7月5日 | 民間委託文庫「南三文庫」開設 |
| 63年7月20日 | 旧芳賀村役場・清里村役場古文書を県立文書館に寄託 |
| 63年12月27日 | 木村民衛氏より細谷而楽作品「乾漆菩薩像」など5点寄贈 |

平成

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 元年4月14日 | 図書館電算システム始動 |
| 元年5月1日 | レコードを全面的に県立図書館へ移管 |
| 2年2月5日 | 大山一也氏より水墨画「渓声」の寄贈 |
| 2年2月26日 | 日向野惇氏より絵画「赤城山初春」の寄贈 |
| 2年5月1日 | 「図書館ネットワーク通信」発行(現・前橋市立図書館だより) |
| 2年5月13日 | 「朔太郎忌」を開催 |
| 2年6月10日 | 萩原朔太郎書誌改訂版編集委託 |
| 2年10月16日 | 芳賀公民館図書室開設 |
| 3年3月31日 | 前橋市立図書館創立75年を記念し「75年小史」を発行 |
| 4年11月24日 | 清里公民館図書室開設 |
| 5年3月31日 | 井上森夫氏他2名より「井上武士関係資料 自筆原稿311点等」の寄贈 |
| 5年5月30日 | 大友児童館停本所を開設 |
| 5年9月3日 | 萩原朔太郎資料を前橋文学館へ移管 |
| 5年9月8日 | 斎藤新一氏より「酒井家関係資料」1,604点の寄贈 |
| 6年3月27日 | 南橘公民館図書室を開設 |
| 6年3月31日 | 「前橋藩松平家記録」刊行開始(平成19年までに全40巻を刊行) |
| 6年4月1日 | 朔太郎記念館を生涯学習課(前橋文学館)へ所属替 |

資料編 第1章

1. 前橋市立図書館の歴史（3）

平成

| | |
|-----------|--|
| 7年2月4日 | 「第1回前橋藩松平記録を読む会」を開催(平成18年までに13回開催) |
| 7年5月27日 | 下小出児童館停本所を開設 |
| 8年4月2日 | 前橋広域圏住民のネットワーク利用開始 |
| 8年6月25日 | 井上森夫氏より「井上武士の肖像画(油絵)」の寄贈 |
| 8年12月26日 | 和久本千代子氏より「前橋藩松平家出仕の澤崎家資料5点」の寄贈 |
| 9年1月10日 | 城南公民館図書室開設 |
| 9年7月1日 | 前橋市総合教育プラザ図書室開設・教育資料館が総合教育プラザへ移転 |
| 10年8月1日 | 高崎市立図書館との相互利用開始 |
| 12年3月 | 群馬県立図書館とGライン接続 利用開始 |
| 12年11月13日 | 下川淵公民館図書室開設 |
| 13年1月 | 「前橋祇園祭礼絵巻(宝暦)」保存修復作業完了 |
| 13年10月28日 | 平成13年度「優良図書館群馬県教育委員会表彰」を受賞 |
| 13年12月 | 「前橋祇園祭礼絵巻(文政)」保存修復作業完了 |
| 14年3月14日 | 在宅障がい者等配本サービス事業を開始 |
| 14年4月23日 | 読み聞かせグループ「萌えぎの会」が文部科学大臣表彰を受賞 |
| 14年6月15日 | 中・高生ボランティアグループ「図書館フレンズ」が活動開始 |
| 14年10月1日 | 前橋市立図書館ホームページ開設 |
| 15年1月19日 | 「図書館フレンズ・ゆきうさぎ」読み聞かせ活動開始 |
| 16年4月23日 | 子どもの読書活動優秀実践図書館として文部科学大臣表彰を受賞 |
| 16年11月3日 | ふれあい図書館まつりを開催 以降毎年開催 |
| 16年12月5日 | 市町村合併により旧大胡町・旧宮城村・旧粕川村の図書館・学習室が停本所となる |
| 18年3月 | 群馬県図書館情報ネットワークに参加 |
| 18年11月1日 | 「図書館だより」創刊200号記念号を発行 |
| 19年4月1日 | 大胡公民館図書室及び粕川公民館図書室開設 |
| 19年10月1日 | 元総社公民館図書室開設 |
| 19年12月8日 | 前橋こども図書館が開館 |
| 20年3月25日 | インターネット予約サービスの開始 |
| 20年5月5日 | 前橋読み聞かせグループ連絡協議会発足 |
| 20年6月1日 | 「荒井良二さんとこども図書館に壁画をかこう！」を開催 |
| 20年7月5日 | ブックスタート事業を開始 |
| 21年3月 | 前橋市子ども読書活動推進計画を策定 |
| 21年5月5日 | 富士見村との合併により旧富士見村の図書館が停本所となる |
| 21年9月7日 | 宮城公民館図書室を開設 |
| 21年9月 | 幼稚園・保育所に絵本セット(100冊)貸出事業を開始 |
| 22年4月1日 | 市内公民館図書室及び総合教育プラザ図書室を分館(13分館)とし、運営を民間業者に業務委託する |
| 23年4月1日 | 本館中央カウンター及びこども図書館カウンターを民間業者に業務委託する |
| 23年7月 | 前橋市内の学校に対する図書館資料の団体貸出事業を開始 |
| 23年7月14日 | 市内全小学校一年生に希望を募り図書館利用カードを配布 以降毎年実施 |
| 23年10月4日 | 総社分館開館 |
| 24年1月5日 | 全14分館にOPAC(利用者開放端末)を設置 |
| 24年3月23日 | 「前橋藩松平大和守家記録405冊」が群馬県指定重要文化財に指定 |

平成

| | |
|----------|---|
| 24年4月 | 読み聞かせ活動支援事業を開始 市内で活動する読み聞かせ関連団体等に絵本・紙芝居等を貸出 |
| 24年9月1日 | 玉村町立図書館と相互利用開始 |
| 25年4月 | 小学校図書委員支援事業を開始 |
| 25年4月23日 | こども図書館が「子どもの読書活動優秀実践図書館」として表彰 |
| 26年2月1日 | 富士見分館開館 |
| 26年2月18日 | 羽鳥直之氏より羽鳥又男関連資料215点の寄贈 |
| 26年11月 | 前橋市子ども読書活動推進計画(第二次)を策定 |
| 26年11月5日 | 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス・メールレファレンスサービス開始 |
| 27年3月16日 | 東分館開館・インターネット在庫資料予約サービス開始 |
| 28年2月1日 | 雑誌スポンサー制度開始 |
| 28年3月15日 | 「前橋藩酒井家前橋城絵図 附 上野国絵図ほか関係資料」が前橋市指定重要文化財に指定 |
| 28年5月3日 | 開館100周年事業を実施(期間:5月3日~29年3月23日) |
| 28年5月6日 | D1-Law.Com閲覧サービス開始 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの資料複写サービス開始 |
| 28年11月1日 | 吉岡町図書館、榛東村公民館図書室(現・榛東村中央公民館図書室)と相互利用開始 |
| 29年3月 | 羽鳥文麿氏より羽鳥重郎関連資料104点の寄贈 羽鳥重明氏より羽鳥重郎関連資料4点の寄贈 |
| 29年4月 | 国立国会図書館レファレンス協同データベースに加入 |
| 29年11月 | 高齢者施設等団体貸出開始 |
| 30年5月18日 | 臨江閣が国指定重要文化財に指定 附資料として「天皇東宮行幸啓関係資料 6冊」が附指定 |
| 31年3月 | 前橋市子ども読書活動推進計画(第三次)を策定 |
| 31年3月1日 | 伊勢崎市図書館・渋川市立図書館との相互利用開始 |

令和

| | |
|----------|---|
| 2年3月8日 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴いこども図書館が休館(期間:3月8日~5月31日) |
| 2年4月15日 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い本館・各分館(15館)停本所(8カ所)民間停本所(2カ所)が休館(期間:4月15日~5月31日) |
| 3年3月24日 | 絵画「前橋駅前風景」の修復完了 |
| 3年8月11日 | 新本館基本構想策定に向けたワークショップ「学生と考える人が集まる図書館」を開催 |
| 3年8月21日 | 新本館基本構想策定に向けたワークショップ「図書館キュレーターに求められる専門性」を開催 |
| 3年9月23日 | 新本館基本構想策定に向けたワークショップ「対話が生まれる図書館建築」を開催 |
| 3年10月30日 | まえばし図書館まつりを開催 読み聞かせ、ブックリサイクル等を実施(期間:10月30日~11月7日) |



南城一夫《桃》1948年 当館所蔵

2. 資料の収集経緯

1916(大正5)年に開館した前橋市立図書館は、105年の歴史の中で数々の資料を収集してきました。

開館から7年後の1923(大正12)年、3代目館長の桜井菊次郎が会長を務め、図書館に事務所をおいた古前橋研究会が設立されました。前橋の古代史に関する調査研究を行い、郷土観念の喚起をはかることを目的としたこの会の登場は、前橋市立図書館における資料の調査研究の礎となりました。中でも、『前橋藩松平大和守家記録』(群馬県指定重要文化財)は1692(元禄5)年から1882(明治15)年に至る190年間の藩政事情を記した記録で、この膨大な記録は一般の公式記録として全国でも類例が少なく、わが国の近世史料として重要なものといわれています。そして、記録の調査研究は図書館の主要事業として歴代の館長へ引き継がれていきました。解説作業が進むと、その成果は前橋在城時の記録を活字にした書籍の刊行事業、松平家記録を読む会や文化講演会を通して還元され、郷土研究として全国的に高い評価を受けています。

古前橋研究会による古代史研究の蓄積は、『前橋市史』の編さんにも役立てられました。前橋市による市史編さん事業が役目を終えると、使用された資料は図書館へ移管されます。その数は4,070点に及び、2018(平成30)年に臨江閣が国指定重要文化財として指定された際に附指定を受けた「天皇東宮行幸啓関係資料」も含まれています。市史編さん資料は、過去から未来へ続く前橋の歴史を読み解くための重要な資料として、市民だけでなく全国の研究者にも活用されてきました。

また、1953(昭和28)年頃に市内の古本屋で見つかった直筆ノートをきっかけにして収集され始めた郷土の詩人・萩原朔太郎関連資料は、前橋市の文化発展の土壤を培うことを目指した7代目館長渋谷国忠の尽力によって収集・調査研究が進みました。その収集範囲は詩集の初版本や原稿を始め、室生犀星や三好達治など朔太郎をめぐる周辺人物資料まで及びます。この調査研究の成果は、当時まだ広く一般に知られていなかった「詩人・萩原朔太郎」の存在を全国へ押し上げるとともに、1993(平成5)年の前橋文学館設立として結実します。これを機に、郷土近代作家文庫として収集保存してきた1万点を超える資料は、前橋文学館へ移管されました。

1977(昭和52)年には「生糸のまち前橋」の歴史を後世に伝える目的で、養蚕・製糸関連資料の収集が始まります。市広報や新聞で市民へ広く寄贈を呼びかけ集まった資料は、蚕糸資料コーナーとして郷土資料室へ設置されました。研究書や蚕の飼育法に関する書籍から「生糸のまち前橋」の象徴的存在であった丸登製糸工場の『仕訳日記帳』など多岐にわたり、蚕糸文庫へ名称を変えて現在も約4500点が保存されています。

3. 郷土資料リスト

| 種類 | 名称 | 内容 |
|--------------|------------------|--|
| 前橋藩史料 | 酒井家史料 | 9代150年間の前橋藩主。編年史料・日記・系譜・氏族名簿・前橋城図など2261点 (市指定重要文化財も含む) |
| | 前橋藩主 松平大和守家記録 | 酒井家以後の前橋藩主。1698(元禄11)年白川在城時から1882(明治15)年までの松平(越前大和守)家に伝えられた御用日記・家中事寄・給帳・日帳など405冊 (県指定重要文化財) |
| 近世家別文書 | 木村家文書 | 木村栄吉宛書簡・前橋藩辞令・知行宛行状など50点 |
| | 野口家文書 | 五料閥所手形・閥所関係資料など237点 |
| | 岡田家文書 | 川曲村戸長役場関係文書147点 |
| | 横地家文書 | 安政以降の御用日記・戸籍人別帖、日本書紀など685点 |
| | 小島家文書 | 駒形町検地帳、御用日記など379点 |
| | 高島家文書 | 前橋藩主松平直基ほか御半物、領分図など62点 |
| | 角田文庫 | 小坂子町出身の博物学者・角田金五郎氏の遺蔵書 (植物・菌類関連資料など)2561点 |
| 郷土人物 伝記資料 | 井上文庫 | 西大室町出身の国学者、医師・井上正香氏の遺蔵書 (漢方研究書・漢方医薬用具関連資料など)965点 |
| | 小見文庫 | 千代田町出身の画家・小見辰男氏の遺蔵書 (美術関連資料)683点 |
| | 丸山文庫 | 千代田町出身の歴史学者、教育者・丸山清康氏の遺蔵書1155点 |
| | 磯部文庫 | 伊勢崎市宮古町出身の日本画家・磯部草丘の遺蔵書 (美術関連資料)267点 |
| | 南雲文庫 | 鉄道関係書290点 |
| | 榛沢文庫 | 旧城南村村長・榛沢氏の遺蔵書(農業関連資料)1137点 |
| | 矢島文庫 | 前橋市史執筆委員・矢島胖氏の民家・建築・社寺関連資料65点 |
| 郷土人物文庫 | 井上武士文庫 | 五代町出身の音楽教育家、作曲家・井上武士の遺蔵書566点 |
| 前橋市史編さん資料 | | 前橋市史編さんのために収集した資料4070点 (うち「天皇東宮行幸啓関係資料」6点は臨江閣附資料として国指定重要文化財) |
| 蚕糸文庫 | | 養蚕・製糸関連資料3783点、丸登製糸株式会社関連資料719点 |

● 前橋市立図書館から他施設へ寄託及び移管した資料

| | | |
|----------|--|----------------------|
| 旧村役場資料 | 芳賀村 | 明治期から前橋市へ合併までの旧村役場資料 |
| | 清里村 | (昭和63年に県立文書館へ寄託) |
| 郷土近代作家文庫 | 萩原朔太郎、高橋元吉、萩原恭次郎、平井晚村、伊藤信吉氏ら前橋出身近代詩人の著作・研究書・原稿・ノート・書簡・色紙・短冊、遺蔵書など(平成5年に前橋文学館へ移管) | |

資料編 第1章

4. 所蔵品リスト

歴史史料

| | 作品名 | 作者 | 制作年 | 形態・点数 | 素材種類 | サイズ(cm) 縦×横×高 |
|----|------------------------|------|---------------|-------------|---------------|------------------|
| 1 | 前橋祇園祭礼絵巻 (市指定重要文化財) | | 江戸時代 中期-後期 | 絵巻物 2点 | 文政11年 宝暦3年 | |
| 2 | 唐館蘭館図絵巻 | 石崎融思 | | 絵巻物 2点1組 | 複製 | |
| 3 | 前橋城絵図 | | 1819年 | 額入 | 和紙 | 77×56.5 |
| 4 | 前橋御門再築設計図(委託資料) | | | 設計図 | 墨書 | 70 |
| 5 | 前橋城瓦(紋入、平瓦など) | | 江戸時代 前期-末期 | 瓦7点 | | |
| 6 | 前橋城釘かくし | | 江戸時代 | 3点 | 木 | |
| 7 | 葵の御紋木製版 | | | 木 | | 27.7×7 |
| 8 | 藩札 | | 江戸時代 | 23枚 | 和紙 | |
| 9 | 再築前橋城御築城御免状 | | 江戸時代末期 | 古文書 | 和紙 | 箱24×15×9 |
| 10 | 松平家書状 | | | 古文書2点 | 和紙 | |
| 11 | 藩蔵米払証文ほか | | | 古文書9点 | 和紙 | |
| 12 | 武家諸法度 | | 1663年 | 古文書 | 和紙 | |
| 13 | 神功皇后三韓征伐之図 | | | 錦絵3点 | 和紙 | 37.3×25.2 |
| 14 | 三川河岸旗印 | | | 紺染旗 | 布 | 70×34 |
| 15 | 萩町日の丸旗 | | | 旗 | 布 | 33×42.5 |
| 16 | 丸に抱き茗荷紋陣笠 | | | 陣笠 | | 直径43 高さ8 |
| 17 | 不明 | 尾高高雅 | | 屏風 | 6曲1双 | |
| 18 | 貞和の板碑 | | 1349年10月 | 板碑 | 石 | 50.3×6.1×2 |
| 19 | 一 | 橋本雅邦 | | 掛軸 | | 103.9×31 |
| 20 | 一 | 関口雨亭 | | 書 | | 25.8×54 |
| 21 | 一 | 石井繁丸 | | 書 | | 額41.9×44.5 |
| 22 | 下長磯翁式三番叟人形 | | | フィルム | 8ミリ | |

博物的資料・絵画

| | 作品名 | 作 者 | 制 作 年 | 形態・点数 | 素材種類 | サイズ(cm) 縦×横×高 |
|---|--------|------|------------|---------|----------|---------------------|
| 1 | 戦災スケッチ | 小見辰男 | 1945年9-11月 | 風景画12点 | 水彩、油彩 | |
| 2 | 司修作品 | 司修 | | 装丁画235点 | | |
| 3 | 赤城山 | 関恒太郎 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 額50.5×62.3 |
| 4 | 太平洋を見る | 堀田清治 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 額50×59.5 |
| 5 | 風景 | 清水刀根 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 作品38×46 額56×63.5 |
| 6 | 桃 | 南城一夫 | 1947-1948年 | 絵画 | 油彩、キャンバス | 24.3×33.6 |
| 7 | 静物 | 島岡實 | 1941年 | 絵画 | 油彩、キャンバス | 31.9×40.8 |

歴史史料 小計 65点
博物的資料・絵画 小計 409点
和書・書簡 小計 86点
合計 560点

| | 作品名 | 作 者 | 制 作 年 | 形態・点数 | 素材種類 | サイズ(cm) 縦×横×高 |
|----|----------------------|-------|-------|----------------|----------|-----------------------|
| 8 | 静物(花) | 川隅路之助 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 作品41×32 額61.8×52.9 |
| 9 | 春野 | 川隅路之助 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 71.5×59.6 |
| 10 | 赤城山初春 | 日向野惇 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 8号 |
| 11 | 前橋駅前風景 | 茂木紘一 | 1972年 | 絵画 | 油彩、キャンバス | 250号 |
| 12 | 凧 | 沢野潔 | | 絵画 | 油彩、キャンバス | 120号 |
| 13 | ケンタウロス | 福沢一郎 | 1970年 | 絵画 | 油彩、キャンバス | 71×162 |
| 14 | 渓声 | 大山一也 | | 絵画 | 水墨画 | |
| 15 | 白鳳山水 | 朝倉徳子 | | 浮彫画 | | 作品59×29 額80×50 |
| 16 | 下村善太郎肖像 (市史編さん資料) | 不明 | | 絵画 | 肖像画 | 作品73×51 額83×61.5 |
| 17 | 井上武士肖像 | 井上森夫 | | 絵画 | 肖像画 | 額80.7×68.5 |
| 18 | 細谷而楽作品 | 細谷而楽 | | 仏像2点 | 乾漆像 | |
| 19 | 細谷而楽作品 | 細谷而楽 | | 丸額3点 | 乾漆レリーフ | |
| 20 | 瞑想(蔓性の見台付) | 細谷而楽 | | 坐像 | 焼成粘土 | 20×31×33 |
| 21 | 吟行句会寄せ書皿 | 細谷而楽 | | 皿 | 樂焼 | 直径17.3 |
| 22 | — | 細谷而楽 | | 短冊 | 直筆俳句 | |
| 23 | 井上武士作品 | 井上武士 | 1953- | ノート譜面 等139点 | | |

和書・書簡

| | 作品名 | 作 者 | 制 作 年 | 形態・点数 | 素材種類 | サイズ(cm) 縦×横×高 |
|----|---------------------|---------------|-------|--------|------|------------------|
| 1 | 近仙居乱稿 一、二 (委託資料) | 河越 保岡孚元吉／著 | — | | | |
| 2 | 孫子読本 一・二 (委託資料) | 前橋 保岡孚元吉／著 | — | 和装書2点 | | |
| 3 | 保岡嶺南日記 | 保岡嶺南 | — | 和装書2点 | | |
| 4 | 曾我物語ほか | | — | 和装書23点 | 日記 | |
| 5 | 上毛之青年 姫路騒動記ほか | | — | 和装書21点 | 和書 | |
| 6 | 韓非子新釋 第二・四巻 | | — | 一般書17点 | 和書 | |
| 7 | 日本風俗史講座 第十九號 | | — | 一般書2点 | 和書 | |
| 8 | 定本忠臣蔵 第一～四巻 | | — | 一般書2点 | 和書 | |
| 9 | 非常時國民全集 | | — | 一般書4点 | 和書 | |
| 10 | 養氣館之記 | | 1889年 | 一般書7点 | 和書 | |
| 11 | 角田書簡 | | — | 一般書 | 和書 | 20.5×29.3 |
| 12 | 角田金五郎資料 | | — | 封書・葉書 | 手紙一式 | |
| 13 | 倉林うめ書状 | | — | 封書・葉書 | 手紙一式 | |
| 14 | 日本外史・題目 | | 1882年 | 版木 | 木 | |
| 15 | 佐農新聞 群馬新聞 | | — | 新聞 | 紙 | |

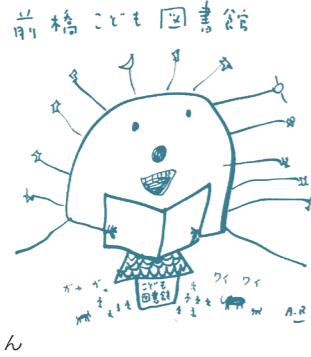
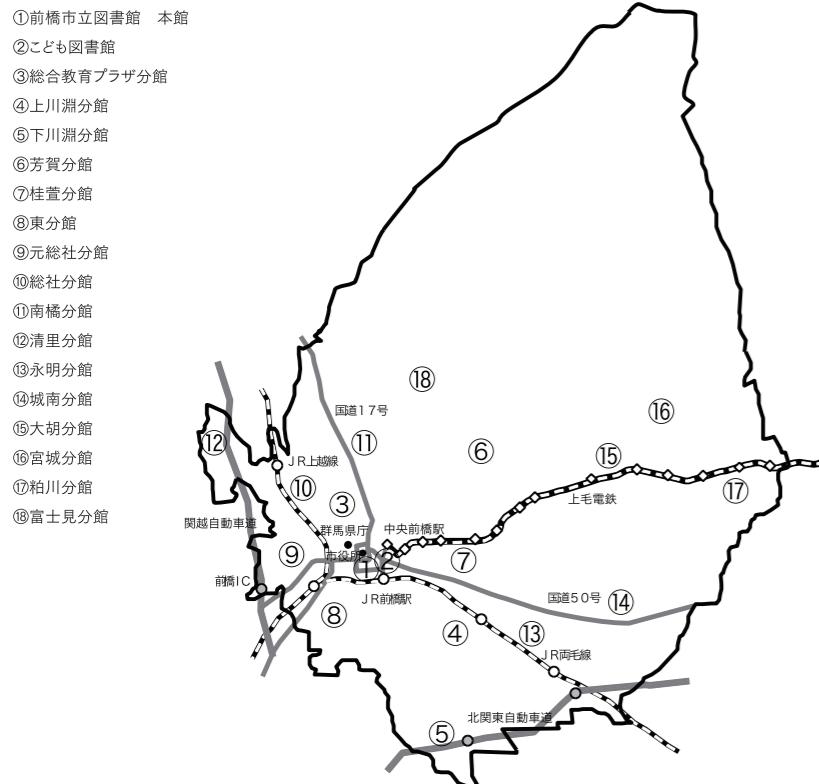
資料編 第2章 前橋市立図書館の現状

1. 施設概要

前橋市立図書館は図書館法の規定に基づき設置した施設で、本館、こども図書館を始め各地区に 16 カ所の分館 (*1) と機能を分担しながら一体的に運営しています。そのほか、7 カ所の停本所と 2 カ所の民間委託文庫も設置されています。

前橋市内に大きく広がる前橋市立図書館のネットワークは、本館と分館が「どこでも借りられてどこへでも返せるネットワーク」で結ばれています。また、前橋市在住・在勤・在学者だけでなく、高崎市・伊勢崎市・渋川市・玉村町・吉岡町・榛東村民も利用登録が可能です。

*1 令和 4 年 5 月に永明分館が開館予定



前橋市立図書館本館

こども図書館くん
(絵本作家・荒井良二氏作)

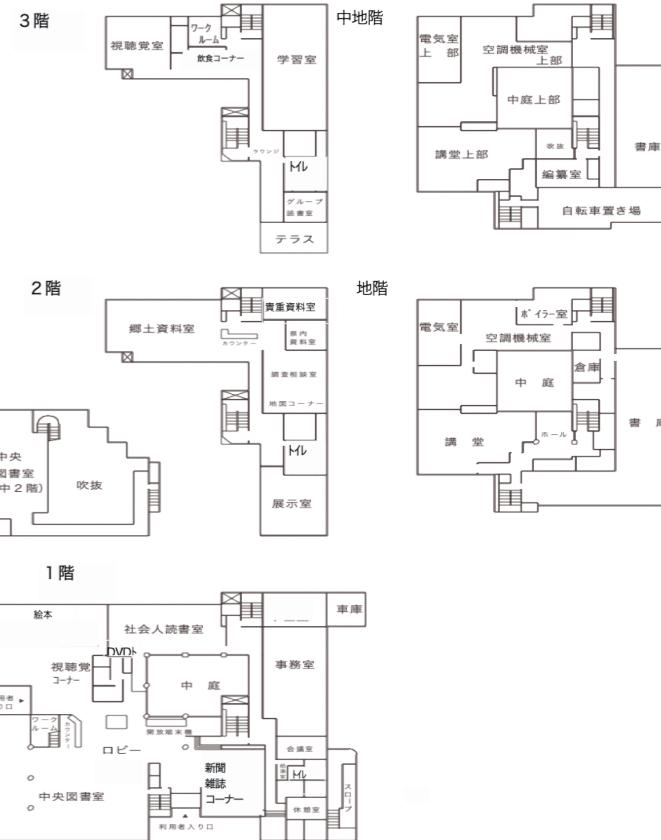
本館

(1) 施設概要

- 所在地 前橋市大手町二丁目 12 番 9 号
- 開館 昭和 49 年 5 月
- 構造 鉄筋コンクリート造り、地上 3 階 地下 2 階
- 面積 敷地 : 3,173.53 m²、建物 : 1,862.11 m²、床面積 : 4,765.43 m²
- 職員数 28 人（うち司書有資格者 11 人）
- 開館時間 火曜日～金曜日 午前 9 時～午後 7 時
土・日曜日・祝日 午前 10 時～午後 5 時
- 休館日 月曜日（休日の場合は翌日）、年末年始、特別整理期間

(2) フロアマップ

右図のとおり

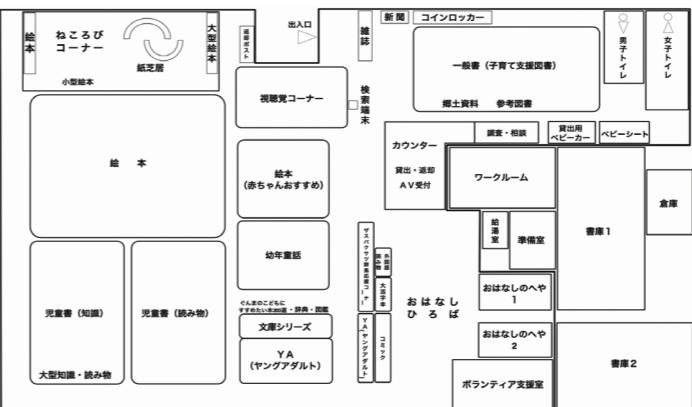


前橋こども図書館

(1) 施設概要

- 所在地 前橋市本町二丁目 12 番 1 号 前橋プラザ元気 2 内 2 階
- 開館 平成 19 年 12 月
- 面積 1,563.32 m²
- 職員数 5 人（うち司書有資格者 1 人）
- 開館時間 午前 10 時～午後 6 時
- 休館日 每月第 4 水曜日（休日の場合は翌日）
年末年始、特別整理期間
6 月・12 月の第 1 月曜日

(2) フロアマップ



前橋こども図書館

停本所・民間委託文庫

停本所

| 名 称 | 所 在 地 | 貸 出 日 |
|--------------|------------------|-----------|
| 第五コミュニティセンター | 文京町三丁目 20 番 36 号 | 第四日曜以外 |
| 児童文化センター | 西片貝町五丁目 8 番地 | 月曜、第二木曜以外 |
| 日吉児童館 | 日吉町二丁目 17 番地 10 | 月曜～土曜 |
| 下小出児童館 | 下小出町二丁目 15 番地 | 月曜～土曜 |
| 大友児童館 | 大友町一丁目 8 番地 | 月曜～土曜 |
| 朝倉児童館 | 朝倉町 170 番地 3 | 月曜～土曜 |
| 柏川児童館 | 柏川町込皆戸 526 番地 | 月曜～土曜 |

民間委託文庫

| 名 称 | 所 在 地 | 貸 出 日 |
|-------|----------------------------|--------|
| 桜ヶ丘文庫 | 総社町桜ヶ丘 1208 番地 9 桜ヶ丘集会所 | 第一・四土曜 |
| 南三文庫 | 南町三丁目 43 番地 15 南三公民館 | 火曜日 |

分館

(1) 施設概要

左図のとおり

(2) 利用案内

- 開館時間 月曜日～金曜日 午前 10 時～午後 6 時
土・日曜日・祝日 午前 10 時～午後 5 時
- 月曜日休館 上川淵・下川淵・桂萱・元総社・総社・南橋・大胡・富士見・プラザ
- 木曜日休館 芳賀、東、清里、城南、宮城、柏川
- 各休館日が休日の場合は翌日、年末年始、特別整理期間

資料編 第2章

2. 蔵書と利用の状況 令和3年3月31日時点

(1) 蔵書数

| 場所 | 一般図書 | | 児童関係 | | | 視聴覚 | | 合計 | 雑誌 タイトル 数 |
|----------|---------|--------|---------|---------|-------|--------|--------|-----------|-----------------|
| 区分 | 一般書 | 郷土資料 | 児童書 | 絵本 | 紙芝居 | CD他 | DVD他 | | |
| 本館 | 223,804 | 85,257 | 4,033 | 4,312 | 72 | 13,329 | 6,735 | 337,542 | 210 |
| 停本所・委託文庫 | 9,971 | 69 | 5,085 | 11,300 | 832 | 616 | 5 | 27,878 | 0 |
| こども図書館 | 15,850 | 535 | 72,862 | 60,265 | 2,931 | 2,704 | 1,944 | 157,091 | 25 |
| 小計 | 249,625 | 85,861 | 81,980 | 75,877 | 3,835 | 16,649 | 8,684 | 522,511 | 235 |
| 上川淵 | 27,521 | 668 | 13,410 | 8,109 | 817 | 1,687 | 361 | 52,573 | 46 |
| 下川淵 | 17,689 | 318 | 10,187 | 9,481 | 434 | 1,659 | 260 | 40,028 | 38 |
| 芳賀 | 13,028 | 333 | 6,752 | 4,600 | 588 | 1,665 | 343 | 27,309 | 34 |
| 桂萱 | 24,447 | 663 | 12,381 | 6,421 | 584 | 2,034 | 350 | 46,880 | 51 |
| 東 | 30,456 | 340 | 8,798 | 7,481 | 385 | 1,146 | 638 | 49,244 | 42 |
| 元総社 | 20,644 | 285 | 8,878 | 6,813 | 561 | 1,154 | 297 | 38,632 | 39 |
| 総社 | 18,888 | 495 | 6,724 | 4,750 | 318 | 941 | 966 | 33,082 | 32 |
| 南橋 | 19,652 | 338 | 9,944 | 6,491 | 317 | 1,889 | 322 | 38,953 | 41 |
| 清里 | 13,321 | 337 | 7,102 | 5,630 | 495 | 1,841 | 272 | 28,998 | 34 |
| 城南 | 15,584 | 261 | 6,459 | 3,865 | 248 | 1,680 | 391 | 28,488 | 33 |
| 大胡 | 17,829 | 474 | 5,361 | 6,483 | 245 | 701 | 261 | 31,354 | 34 |
| 宮城 | 14,757 | 398 | 4,816 | 5,633 | 255 | 466 | 231 | 26,556 | 30 |
| 柏川 | 11,208 | 291 | 5,258 | 5,750 | 241 | 720 | 278 | 23,746 | 22 |
| 富士見 | 26,836 | 700 | 10,740 | 6,551 | 250 | 1,224 | 593 | 46,894 | 40 |
| 総合教育プラザ | 14,192 | 259 | 7,024 | 5,101 | 423 | 1,435 | 303 | 28,737 | 35 |
| 分館小計 | 286,052 | 6,160 | 123,834 | 93,159 | 6,161 | 20,242 | 5,866 | 541,474 | 551 |
| 合計 | 535,677 | 92,021 | 205,814 | 169,036 | 9,996 | 36,891 | 14,550 | 1,063,985 | 786 |

(2) 種類別蔵書数 単位：冊・点

| 一般書 | 郷土資料 | | 児童書 | | 視聴覚資料 | | |
|--------|---------|---------|--------|-----|---------|---------|--------|
| 一般図書 | 493,617 | 郷土資料 | 64,987 | 児童書 | 205,814 | CD | 36,329 |
| 参考図書 | 7,191 | 前橋市関連資料 | 24,195 | 絵本 | 169,036 | カセットテープ | 520 |
| コミック | 16,906 | 群馬県内新聞 | 2,839 | 紙芝居 | 9,996 | ビデオテープ | 355 |
| 外国語 | 1,172 | | | | DVD | 10,056 | |
| 和装書・他 | 6,535 | | | | CD-ROM | 346 | |
| 保存一般雑誌 | 10,256 | | | | マイクロ資料 | 3,783 | |
| | | | | | その他 | 52 | |
| 小計 | 535,677 | 小計 | 92,021 | 小計 | 384,846 | 小計 | 51,441 |

(3) 利用の状況

| 施設区分 | 新規(*) ² | 貸出 | 貸出冊数・点数 | | | | |
|----------|--------------------|---------|-----------|---------|-----------|-----|----|
| | | | 登録者数 | 利用者数 | 図書 | 視聴覚 | 合計 |
| 本館 | 1,972 | 78,320 | 283,233 | 56,934 | 340,167 | | |
| 停本所・委託文庫 | 490 | 2,760 | 9,645 | 79 | 9,724 | | |
| こども図書館 | 521 | 21,907 | 136,393 | 14,421 | 150,814 | | |
| 小計 | 2,983 | 102,987 | 429,271 | 71,434 | 500,705 | | |
| 上川淵 | 178 | 30,493 | 132,173 | 9,117 | 141,290 | | |
| 下川淵 | 108 | 20,110 | 92,203 | 5,852 | 98,055 | | |
| 芳賀 | 48 | 10,328 | 39,039 | 3,617 | 42,656 | | |
| 桂萱 | 121 | 25,018 | 105,730 | 7,085 | 112,815 | | |
| 東 | 391 | 46,883 | 204,072 | 13,518 | 217,590 | | |
| 元総社 | 123 | 19,880 | 81,977 | 5,164 | 87,141 | | |
| 総社 | 94 | 13,649 | 56,647 | 5,320 | 61,967 | | |
| 南橋 | 151 | 21,590 | 96,780 | 6,496 | 103,276 | | |
| 清里 | 60 | 10,571 | 50,535 | 3,914 | 54,449 | | |
| 城南 | 101 | 14,016 | 60,242 | 5,165 | 65,407 | | |
| 大胡 | 80 | 9,338 | 38,428 | 2,226 | 40,654 | | |
| 宮城 | 40 | 7,725 | 30,587 | 1,564 | 32,151 | | |
| 柏川 | 34 | 4,633 | 18,319 | 1,685 | 20,004 | | |
| 富士見 | 164 | 16,629 | 69,883 | 6,251 | 76,134 | | |
| 総合教育プラザ | 40 | 11,371 | 42,084 | 3,743 | 45,827 | | |
| 小計 | 1,733 | 262,234 | 1,118,699 | 80,717 | 1,199,416 | | |
| 合計 | 4,716 | 365,221 | 1,547,970 | 152,151 | 1,700,121 | | |

*2 新規登録者は R2.4.1 ~ R3.3.31までの新規登録者数

(4) 利用の推移

● 貸出利用者数の推移 (単位：人)

| | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 本館等 | 106,051 | 102,976 | 101,357 | 100,915 | 81,080 |
| こども図書館 | 39,414 | 39,765 | 40,004 | 35,784 | 21,907 |
| 分館 | 325,485 | 327,560 | 329,745 | 323,855 | 262,234 |
| 合計 | 470,950 | 470,301 | 471,106 | 460,554 | 365,221 |

● 貸出冊数・点数の推移 (単位：冊・点)

| | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 | 令和2年度 |
|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 本館等 | 448,365 | 423,825 | 420,019 | 415,365 | 349,891 |
| こども図書館 | 226,969 | 231,453 | 238,107 | 213,075 | 150,814 |
| 分館 | 1,465,463 | 1,460,927 | 1,454,567 | 1,430,778 | 1,199,416 |
| 合計 | 2,140,797 | 2,116,205 | 2,112,693 | 2,059,218 | 1,700,121 |

(5) 新聞の所蔵状況

- ・朝日小学生新聞
- ・東京新聞
- ・読売中高生新聞
- ・しんぶん赤旗
- ・朝日中高生新聞
- ・日刊工業新聞
- ・MAINICHI WEEKLY
- ・聖教新聞
- ・朝日新聞
- ・日刊スポーツ
- ・茨城新聞
- ・全国商工新聞
- ・ぐんま経済新聞
- ・日経産業新聞
- ・神奈川新聞
- ・千葉日報
- ・群馬建設新聞
- ・日経流通新聞
- ・教育学術新聞
- ・新潟日報
- ・The Japan Times
- ・日本経済新聞
- ・公明新聞
- ・福島民報
- ・産経新聞
- ・毎日小学生新聞
- ・埼玉新聞
- ・福島民友新聞
- ・上毛新聞
- ・毎日新聞
- ・信濃毎日新聞
- ・山梨日日新聞
- ・スポーツニッポン
- ・読売 KODOMO 新聞
- ・下野新聞
- ・スポーツ報知
- ・読売新聞
- ・宗教新聞

資料編 第3章 アンケート結果

1. 前橋市立図書館利用者アンケート *一部抜粋

(1) 実施期間

令和3年10月11日(月)～11月7日(日)

(2) 対象

A: 図書館(本館・こども図書館・各分館)利用者、図書館ホームページ利用者

B: 市立学校(小・中・高)及び保護者(高)

(3) 手段

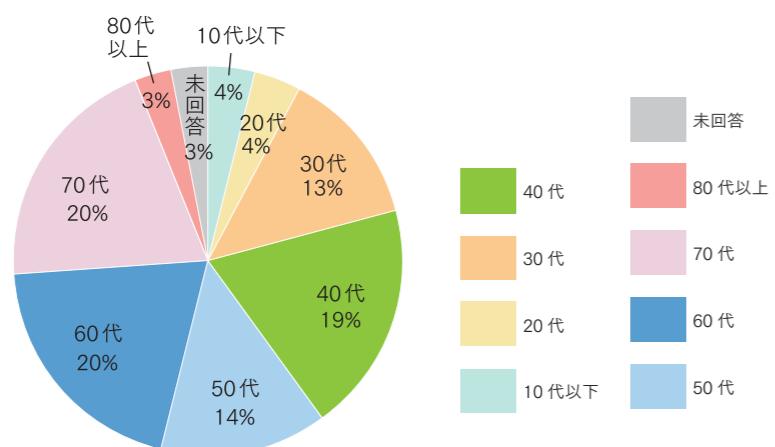
A: 図書館利用者にアンケート用紙を配付、WEB回答

B: 児童生徒用タブレットからの回答

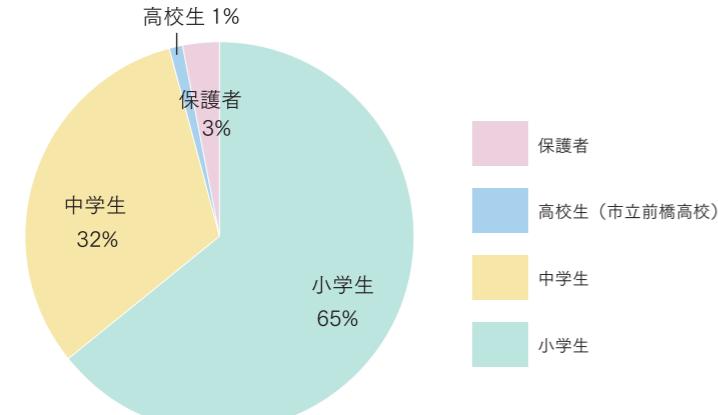
(4) 回答件数

5,131件(回答用紙:1,227件、インターネット3,904件)

アンケートの年代別回答数



児童・生徒タブレット端末を活用したアンケート結果



(5) アンケート結果

① 新しい図書館がどのような施設なら行ってみたいと思いますか?

複数回答可

| | A | | B | |
|-------------------------------|--------|----|--------|----|
| | 順位 | 順位 | 順位 | 順位 |
| 駐車場がある | 59.0% | 1 | 70.3% | 2 |
| リラックスし長時間過ごせるスペースがある | 45.9% | 2 | 72.0% | 1 |
| 目当ての本が取りやすいように書架に工夫がされている | 34.3% | 3 | 37.5% | 14 |
| カフェや物販などがあり、飲食スペースがある | 33.8% | 4 | 61.7% | 7 |
| Wi-Fi環境が整っている | 29.0% | 5 | 60.9% | 9 |
| あらゆる人に対応した施設設備が整備されている | 25.9% | 6 | 50.7% | 11 |
| 館内がエリア別に色分けされているなど分かりやすくなっている | 25.4% | 7 | 69.1% | 3 |
| テラスや屋外で読書ができる | 25.1% | 8 | 49.7% | 12 |
| 静寂な閲覧コーナーがある | 24.1% | 9 | 49.2% | 13 |
| 学習室がある | 19.0% | 10 | 62.4% | 6 |
| 駐輪場がある | 18.8% | 11 | 61.2% | 8 |
| 個室スペースがある | 18.7% | 12 | 66.5% | 5 |
| 入口や通路が広い | 18.3% | 13 | 66.9% | 4 |
| 美術品・絵画などの展示がある | 17.2% | 14 | 15.8% | 17 |
| 季節を感じられる演出がある | 15.8% | 15 | 37.4% | 15 |
| 友だちと一緒に本や雑誌を読んだり、会話ができる空間がある | 12.8% | 16 | 57.7% | 10 |
| 多目的に使えるスペースがある | 8.3% | 17 | 32.9% | 16 |
| その他 | 6.3% | 18 | | |
| 計 | 437.7% | | 921.9% | |

② 新しい図書館にどのようなサービスが欲しいですか?

複数回答可

| | A | | B | |
|------------------------------|--------|----|--------|----|
| | 順位 | 順位 | 順位 | 順位 |
| 自動で貸し出し、返却ができる | 38.4% | 1 | 56.5% | 2 |
| 自分のパソコンやスマホで蔵書を試し読みできる | 28.3% | 2 | 41.4% | 7 |
| 読書や調べ学習の相談や支援を受けることができる | 21.2% | 3 | 44.6% | 5 |
| インターネット接続ができるパソコンがある | 18.1% | 4 | 56.3% | 3 |
| 障がいがある人や、多国籍の人たちに配慮したサービスがある | 17.3% | 5 | 54.7% | 4 |
| 開館時間が長い | 16.8% | 6 | 64.1% | 1 |
| 映像などの配信サービスがある | 11.3% | 7 | 29.1% | 8 |
| 託児サービスがある | 8.6% | 8 | 43.0% | 6 |
| その他 | 3.8% | 9 | | |
| 計 | 163.8% | | 389.7% | |

Aの回答では「自動で貸し出し、返却ができる」「読書や調べ学習の相談や支援を受けることができる」の順位が高く、資料提供などのサービスにICT技術を活用していくことや、人による利用者の学びを支援するサービスへの期待が伺える。

A・Bともに「リラックスし長時間過ごせるスペースがある」の順位が高く、館内が居心地のよい空間であることを望む回答が多くかった。また、Bの回答では「学習室がある」を選択した割合が高く、子どもたちの学びを支援するための場所が求められていることが分かる。

③ 新しい図書館では、特にどのような資料が豊富にあるといいですか?

複数回答可

| | A | | B | |
|---------------|--------|----|--------|----|
| | 順位 | 順位 | 順位 | 順位 |
| 趣味や教養に役立つ書籍 | 44.0% | 1 | 58.5% | 1 |
| 生活に役立つ書籍 | 31.9% | 2 | 40.6% | 7 |
| 受賞作品 | 26.7% | 3 | 48.3% | 2 |
| CD | 23.3% | 4 | 43.2% | 4 |
| DVD | 23.2% | 5 | 47.3% | 3 |
| 絵本 | 22.1% | 6 | 25.1% | 12 |
| 児童書 | 19.1% | 7 | 31.9% | 9 |
| 既に出版されなくなった書籍 | 18.7% | 8 | 25.4% | 11 |
| マイナーな作家の作品 | 16.7% | 9 | 34.0% | 8 |
| デジタル図書(電子書籍) | 16.2% | 10 | 40.7% | 6 |
| 郷土資料 | 10.3% | 11 | 15.9% | 14 |
| 全集・図鑑 | 9.5% | 12 | 26.5% | 10 |
| ライトノベル | 7.1% | 13 | 41.9% | 5 |
| 洋書 | 5.7% | 14 | 24.4% | 13 |
| その他 | 5.4% | 15 | | |
| 計 | 279.9% | | 503.7% | |

- ④ 新しい図書館ではどのようなイベントをのぞみますか?
(複数回答可)

| | A | | B | |
|--------------------------------------|--------|----|--------|----|
| | 順位 | | 順位 | |
| 映画会 | 27.3% | 1 | 56.1% | 1 |
| 音楽会 | 23.5% | 2 | 37.0% | 6 |
| 地域との繋がりや、郷土愛を育めるイベント | 18.1% | 3 | 20.4% | 10 |
| 図書館員の仕事体験 | 14.9% | 4 | 37.5% | 4 |
| 作品の展覧会 | 13.5% | 5 | 30.9% | 7 |
| 館内で一日過ごせるイベント | 13.2% | 6 | 37.1% | 5 |
| 工作 | 11.2% | 7 | 47.4% | 2 |
| バックヤードツアーやお泊り会（キャンプ）など閉館後の図書館で行うイベント | 10.8% | 8 | 39.5% | 3 |
| 交流イベント | 7.0% | 9 | 20.7% | 9 |
| その他 | 5.2% | 10 | | |
| 運動 | 3.4% | 11 | 27.7% | 8 |
| 計 | 148.1% | | 354.3% | |

- ⑥ 50年後・100年後の図書館はどうなっていると思いますか、またはどうなっていて欲しいですか?

(記述意見一部抜粋 / A: 図書館利用者のみ質問)

- デジタル化による利便性の向上と紙の本の充実（特に多かった意見）
- 今よりもにぎやかで人のあふれる明るい図書館。新しいものを取り入れて常に成長し人々の心に彩を添える存在であってほしい。
- ゆっくりと本を読め、リラックスできるような場所。気軽に利用できる身近な場所であり続けてほしい。
- 図書館はお金がなくても知識や娯楽が得られる場所で、お金が自由にならない子どもでも利用することができる。
家に、学校に居場所がない子どもの味方で有り続けてほしいと思う。
- 電子化されているが、無人ではなく人と人の交流の場。
- 映画館、ギャラリー、レストラン＆カフェ等があり前橋市のシンボルとして有名なスポットになっていてほしい。
- 書籍のデジタル化は進むでしょうし、現在予想できないような変化もあるでしょう。そうであっても、紙の本は残ってほしいです。
公立図書館が中心となって、貴重な文献・資料を残してほしい。
- 余暇時間が増え、人口減少、少子高齢化による、社会変化で読みたい図書を備付けていくことで図書館の必要性は高くなると思う。
活字（紙）文化の保存拠点として、永久に有り続けてほしい。
- 身体の不自由があったり高齢であっても本の貸し出し返却できるとよい。
本の配達、回収をしてもらえると今後も利用できてとても嬉しい。
- ネットでは得られない感覚に出会えるのが本の魅力。ぜひ知識だけにとらわれない感覚を本を通じて市民に解放することを
続けてもらいたい。
- 誰もが利用しやすい空間であってほしいと思います。話しながら利用できるエリア、静かに読書に没頭できるエリア、
勉強に集中できるエリア、様々な空間を楽しみたいです。

2. 子ども読書活動推進計画（第三次）に伴うアンケート *一部抜粋

(1) 実施期間

令和3年1月8日（金）～1月31日（日）

(2) 実施対象

対象者：市内保育所（園）・認定こども園・幼稚園の保護者、市立小中学校児童生徒・高校生及びその保護者

対象施設：保育所（園）、認定こども園、幼稚園、市立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校

(3) 実施目的

前橋市における子ども読書活動の実態を把握するとともに、読書活動推進の基礎資料とするため

(4) 回答件数

2,899件（施設：126）

(5) アンケート結果

わからないことや知りたいことがあるとき、どのように調べますか。（複数回答可）

⑤ 新しい図書館でやってみたいことはありますか?

(複数回答可)

| | A | | B | |
|--------------|-------|---|--------|---|
| | 順位 | | 順位 | |
| イベント参加 | 25.8% | 1 | 56.7% | 1 |
| ボランティアとして関わる | 16.9% | 2 | 35.0% | 2 |
| イベント等の企画・提案 | 5.1% | 3 | 23.3% | 3 |
| その他 | 4.1% | 4 | | |
| 計 | 51.9% | | 115.0% | |

| | 中学生 | 高校生 |
|-------------|-------|-------|
| インターネットで調べる | 42.1% | 61.0% |
| 先生や家の人に聞く | 18.7% | 10.4% |
| 友達に聞く | 16.0% | 14.7% |
| 辞書や事典で調べる | 15.5% | 10.6% |
| 家にある本で調べる | 4.5% | 1.5% |
| 学校図書館で調べる | 2.0% | 0.5% |
| 公立図書館で調べる | 0.6% | 0.3% |
| その他 | 0.6% | 1.0% |

中学生、高校生ともに「インターネットで調べる」割合が高く、「学校図書館や公立図書館で調べる」割合は低くなっている。インターネットを活用することで、短時間で効率よく答えが手に入る一方、調査方法や内容の信ぴょう性を判断するスキルが必要になる。

新本館では、ICTを活用した調査手段を用意するとともに、正しい答えに辿り着く道筋や、情報の信ぴょう性を判断するための資料の利用方法など、図書館員の専門性を活用したレファレンスによりインターネットとの共存と差別化を図り、利用者のニーズに応えていく必要がある。